ふしぎの海のナディア

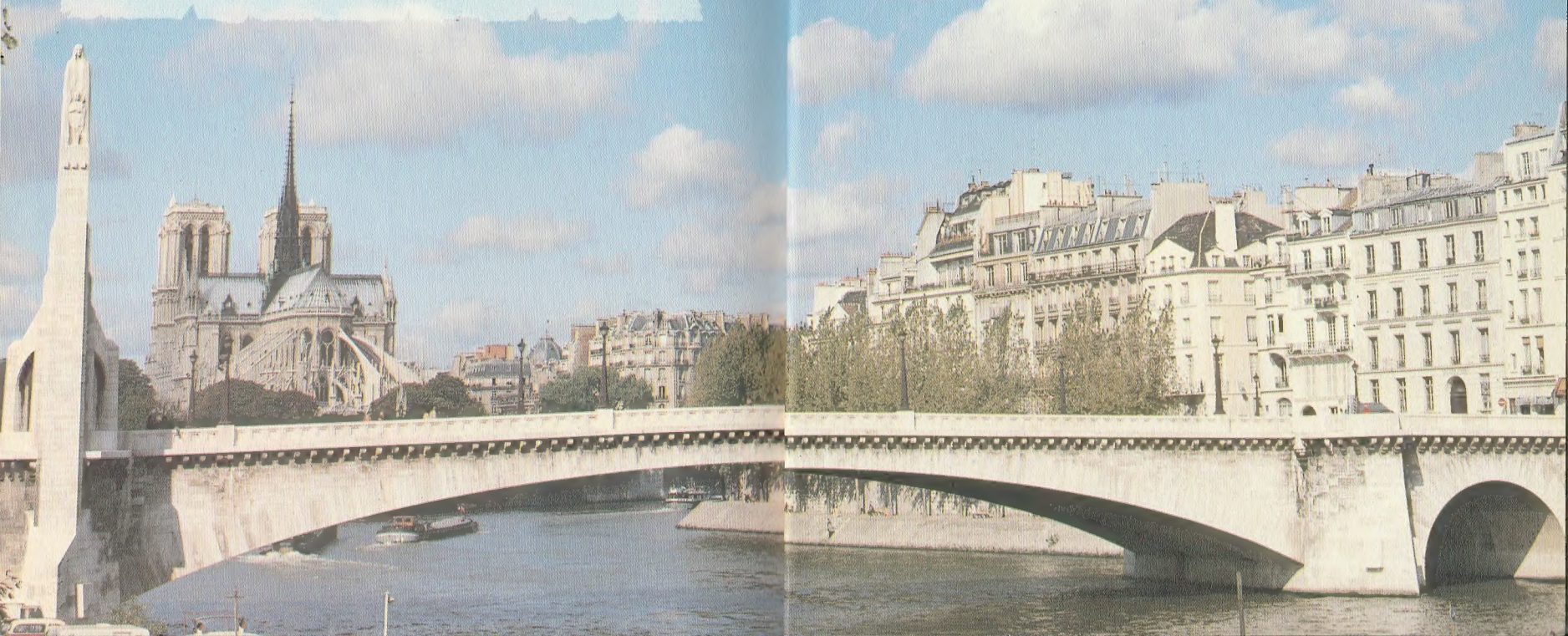
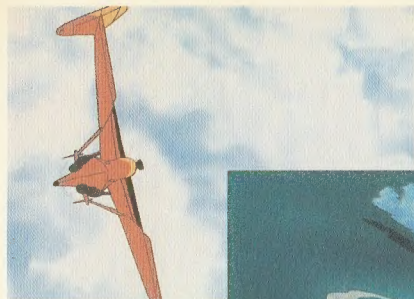
公式 GUIDE BOOK

汝(なんじ)は冒険者か
危険という名の滝を潜(くぐ)り抜け
その奥に伝説の正体を求める者か？
……ならば我を求めよ

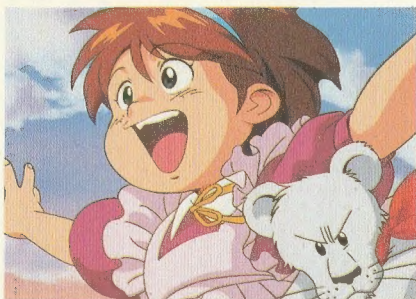
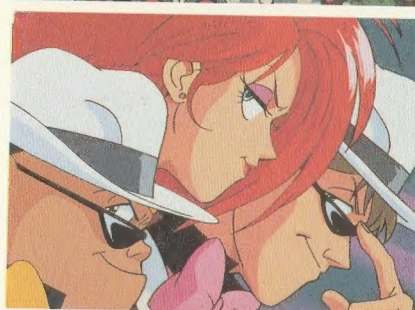
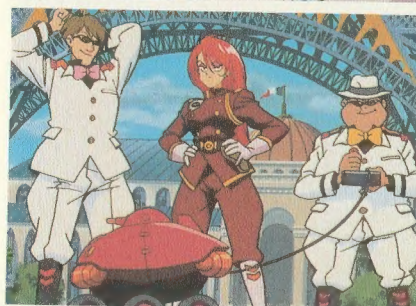
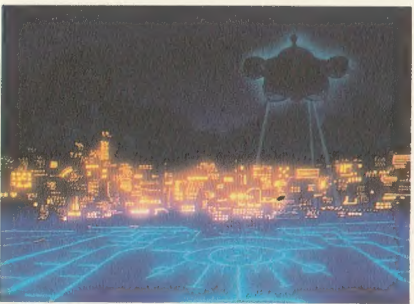
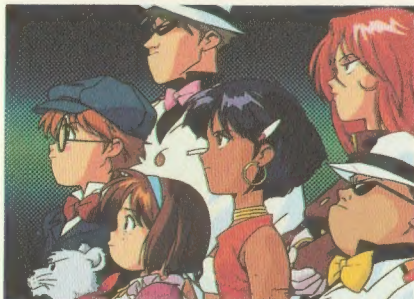
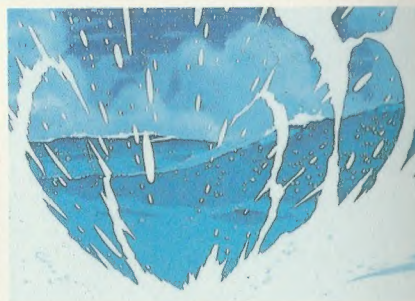
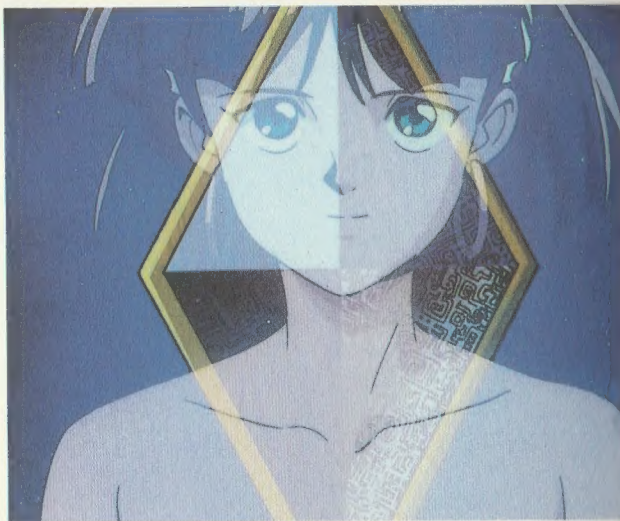
（第1話オープニング・ナレーションより）

もくじ

OPENING

ふしぎの海のナディア

今　君の目に　いっぱいの未来
すべてを輝かす
弱気な人は嫌い　青空裏切らない
夢見る前に私　飛んで行きたい
心のオルゴールが　開いてく響いてく
少しずつの幸福　勇気も　奏で出すの
今　君の目に　いっぱいの未来
言葉は永遠のシグナル
DON'T FORGET TO TRY IN MIND
愛はJewelより
すべてを輝かす

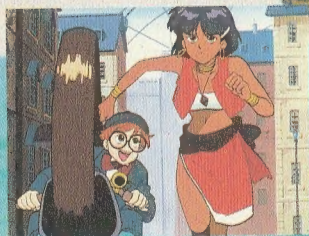
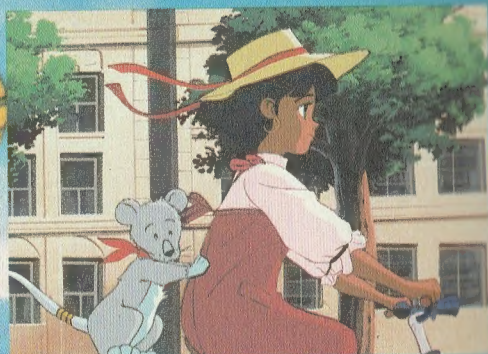
「ブルーウォーター」

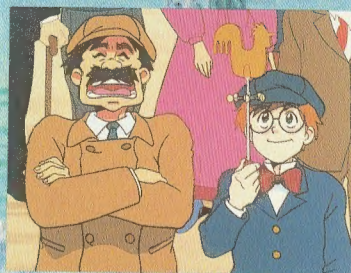
作詞■来生えつこ　作曲■井上ヨシマサ　歌■森川美穂（東芝ＥＭＩ）

THE SECRET OF BLUE WATER ◀ OPENING

「ふしぎの海のナディア」のオープニングは、全部で40カット(場面)で構成されている。カットの数だけでいえば、他のTVアニメと比較しても決して多くないのだが、パン(場面移動)のある長回しのカットとフラッシュバック的な素早いカット割で編集されており、密度の濃い仕上がりとなっている。

オープニングの制作は、主題歌が完成してから曲に合わせて行われた。作画作業はガイナックスが担当している。

出会い

自転車に乗ったナディアに、ジャンは一目ぼれ！

追われるナディアをジャンは助けようとする

ジャンの一輪バイクにグラタンが襲いかかる

ナディアを助けたジャンは一路、故郷へ

ジャンと伯父は自作の飛行機でコンテストに出場

1889年、海では謎の遭難事件が相次ぎ、巨大な海獣の仕業という噂が広まっていた。

同じころ、パリでは万国博覧会の催し物として〝国際飛行コンテスト〟が開催され、発明ずきの少年ジャンは、伯父とともに自作の飛行機を参加させるためパリにやってきていた。街角で褐色の肌をした少女を見かけたジャンは、彼女に心魅かれ、少女の持つ宝石をねらう三人組から少女——ナディアを救いだし、ジャンの故郷ル＝アーブルへと向かう。

部屋いっぱいの発明品に感心するナディア

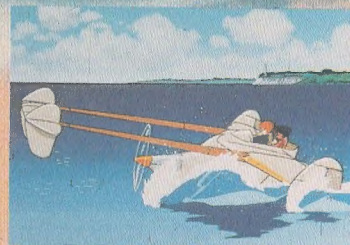
ブルーウォーターが光り輝き危険を警告する

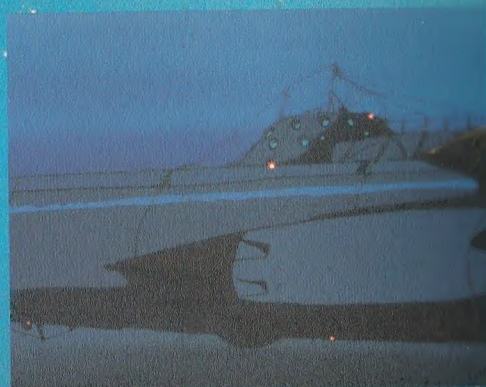
ジャンの作った飛行機で追手から脱出！

旅立ち

ジャンの家にたどりついたナディアは、様々な珍発明品に感心するが、なかでも行方不明になっている父親を捜すために作った飛行機を見て、ジャンの優しさに心を和ませる。だがそこにグランディスたち3人組が現れる。ナディアの持つ宝石を守るため、ジャンは試作中の飛行機でナディアとともに飛び立ち、グランディスたちから逃れるが、重量オーバーで海に落ちてしまう。そんな彼らを救ったのは大海獣を追うアメリカの新造戦艦だった。

海獣退治が戦艦の任務だと説明する船員のエアト

漂流中のジャンたちはアメリカ海軍に救助される

シャンたちはノーチラス号に助けられる

ノーチラス号の正体は？　敵か味方か？

夜の海を潜行する万能潜水艦ノーチラス号

セーヌ湾に出現した赤い怪光

遭　遇

戦艦エイブラハム号に接近する大海獣

セーヌ湾をパトロールする戦艦エイブラハム号の前に大海獣が出現！　砲撃を開始するエイブラハム号だが全く歯がたたず、逆襲を受けて大破してしまう　ジャンたちは海にほうり出されてしまうが、そこへもう一匹の大海獣が！　海上を漂流するジャンたちは大海獣に助けられ、大海獣と思われていたのが〝ノーチラス号〟という名前の潜水艦だと知る。ノーチラス号は世界征服をたくらむ秘密結社ネオ・アトランティスの怪潜水艦を追っていたのだ。物語は、ノーチラス号の登場とともに大きく動きはじめるのだった……

THE SECRET OF BLUE WATER

キャラクターズ

NADIA CHARACTERS

「ふしぎの海のナディア」には、個性豊かなキャラクターたちが数多く登場し、バラエティな魅力を作りだしている。その主要なキャラクターを紹介しよう。

ナディア

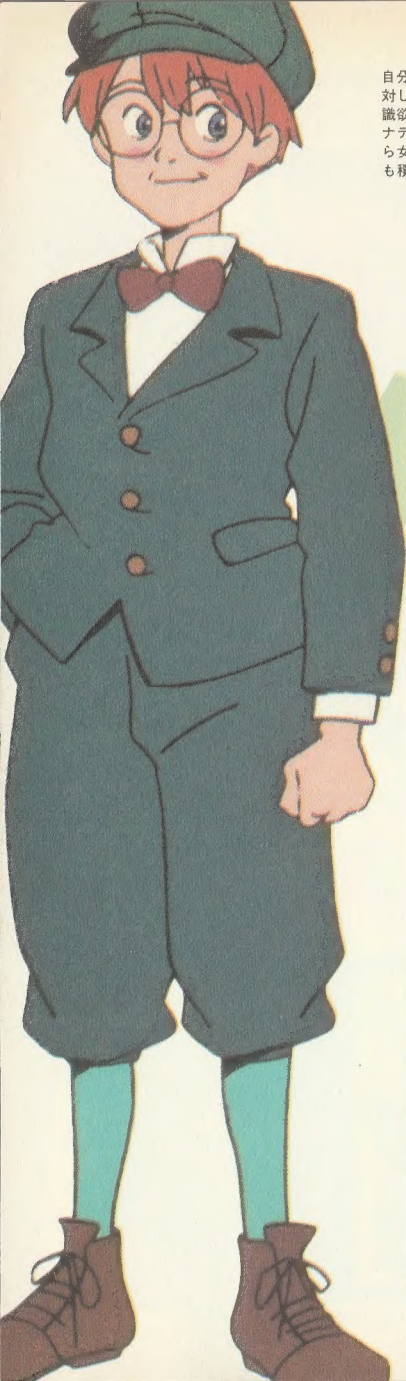
2歳のとき、サーカスに拾われ育てられた14歳の美少女。優しい心を持つが、芯は強く、陰がある。動物と植物の知識に富み、動物と心を通じ合うことができる。反対に人を拒絶し心の底から信頼することがない。身につけた宝石（ブルー・ウォーター）が物語の秘密を解く鍵になっている。

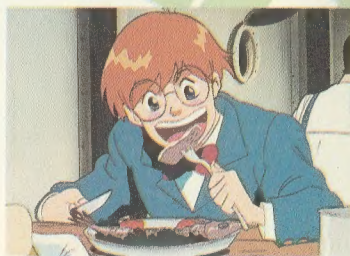
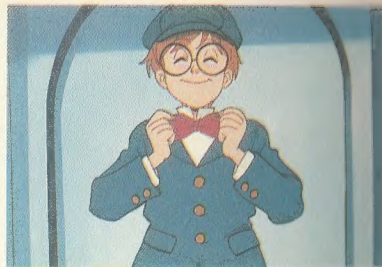
NADIA

運動能力に優れ、サーカスの花形スターとして喝采をあびる

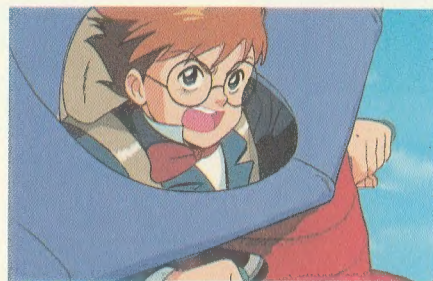
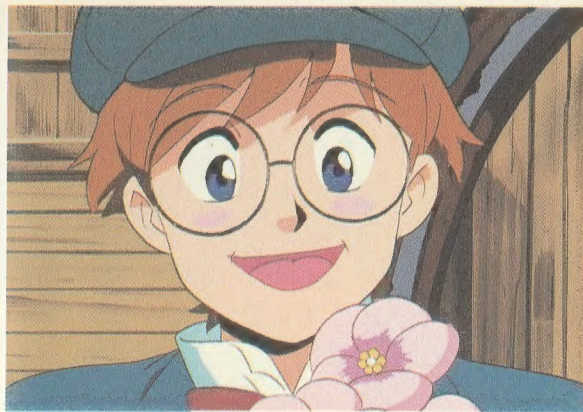
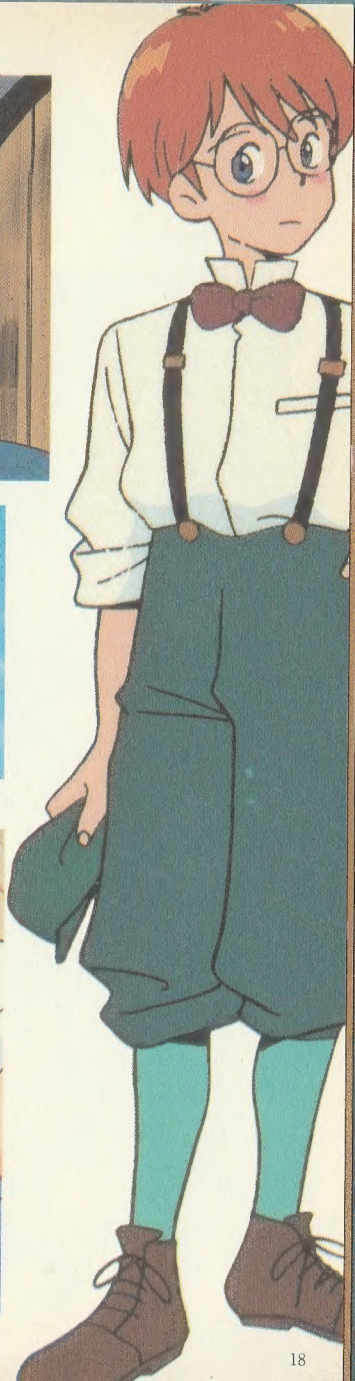
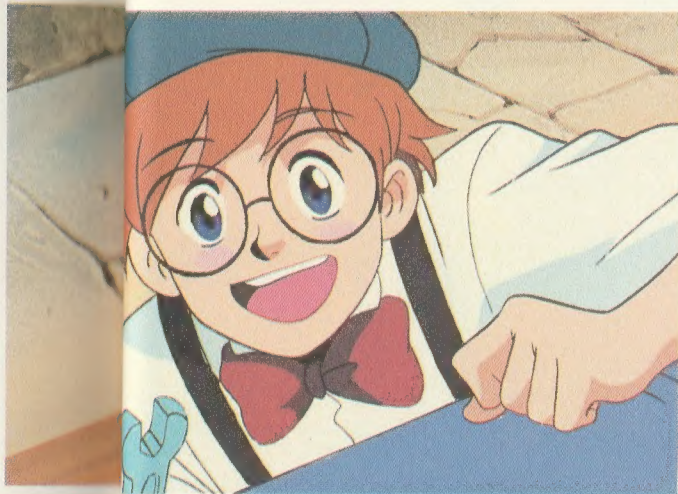
ナディアに危険がせまると宝石が光り輝く

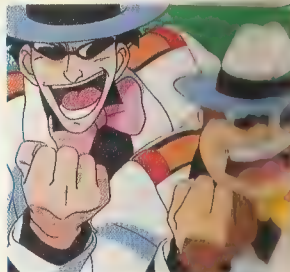
徹底的なベジタリアン（菜食主義者）

自転車を優雅に乗るお嬢さま風のナディアを見て、少年ジャンは一目ぼれしてしまう

自分のすきな物に対しての興味、知識欲はものすごく、ナディアを見てから女の子に対しても積極的

行方不明の父を捜すため飛行機を開発する

物質的な苦労を知らない子どもである

ジャンコック・ラルティーグ

フランスの港町・ル＝アーブルに住む発明ずきな14歳の少年。船長の父は太平洋で海の大海獣に襲われ行方不明になったまま。飛行機を完成させ、これに乗って父を捜しに行くのが、夢。天真爛漫の極楽トンボで、好奇心が強く、人見しりしない。ナディアと出会い、はじめて女の子に興味をもつ。

サンソン

グランディスの有能な部下のひとり。世渡りがうまく、現実主義者でクールな皮肉屋。27歳。自分の容貌には過剰な自信をもっている幸福なナルシスト。車を運転するときには、性格が一変して乱暴になり、グラタンを自在に操る。秘かに年上のグランディスを慕っている。

歌を唱えばブルース・ブノリ・・・

ハンソン

グランディスの有能な部下のひとり。見かけによらずノーベル賞級の科学者で、グラタン（グランディス・タンク）の発明者。27歳。サンソンとは反対に世渡りは上手とはいえないが、純粋な心を持っている。

シビビーンと大騒動！

グランディス・グランバァ

ナディアのブルーウォーターをねらう28歳のグラマー美女。イタリアの名門家のひとり娘。箱入り娘だったが18歳のときに、はじめての恋人に裏切られてから人生観が変わり、宝石や金品を収集するのが生きがいになる。自分が世界の中心にいないと気がすまない自己中心的でわがままな女性。

愛車のグラタンで活動する

エレクトラ以下、有能な部下を従えている

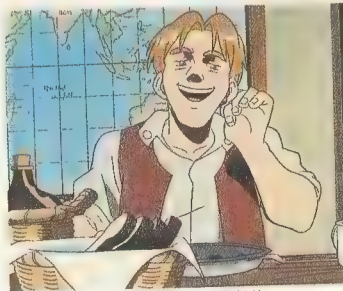
ネモ船長

万能潜水艦ノーチラス号の船長。無口だが、意志が強く不屈な精神の持ち主。46歳。ガーゴイルの野望を砕くことを生きる目的にしている。その目的のためには手段を選ばないと信じている。趣味はパイプオルガン。

エレクトラ

ネモ船長の信頼の厚い副官兼秘書。理知的で冷静沈着だが、冷たい感じが多少する26歳の美女。ネモの信頼に反して、ネモを信頼しておらず憎しみとも思える感情を持っている。ジャンを弟のように思う。趣味は読書。

ネモの有能なパートナーだが……

仮面に隠された素顔とは？

どんな状況下でも楽しめる幸せな性格

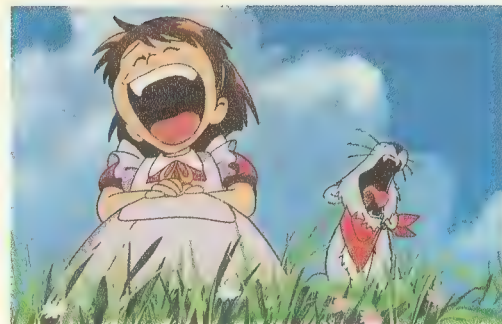
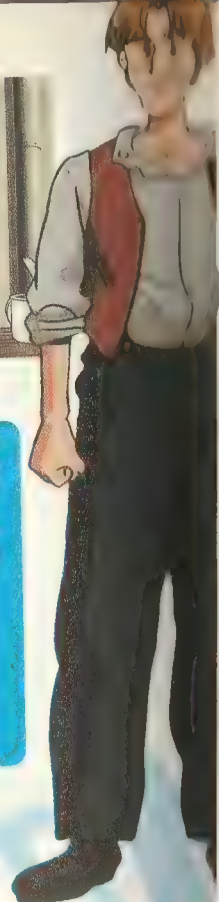
エアトン

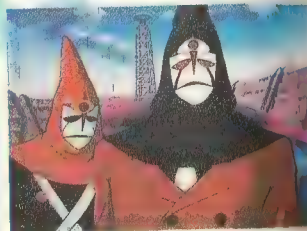
怪獣退治に出たアメリカ戦艦エイブラハム号の炊事係。自称生物学者。27歳。物事を何でも楽しいと思う術を身につけ、人生を味わって生きることのできる幸せな人だが、人生に目的意識を持たず、自己中心的な面もある。

ガーゴイル

19世紀の水準をはるかに超えた強力な武力、科学を持つ秘密結社ネオ・アトランティスの責任者。46歳。自分は古代アトラス人の子孫であり、その正統な末裔であることを誇りにしている。人類を科学に導いたのはアトラス人であり、もう一度、世界をアトラス人が導き、支配すべきであるという選民思想を持ち、世界征服を企む。

最終兵器を作るためナディアの宝石をね

キング

ナディアが拾われたサーカスの赤ちゃんライオン。サーカスでのナディアが唯一、心を許せる友だち。常にナディアと一緒に行動し、ナディアが敵に襲われたときはナディアとともに戦う。マリーのペット兼ボディガード。

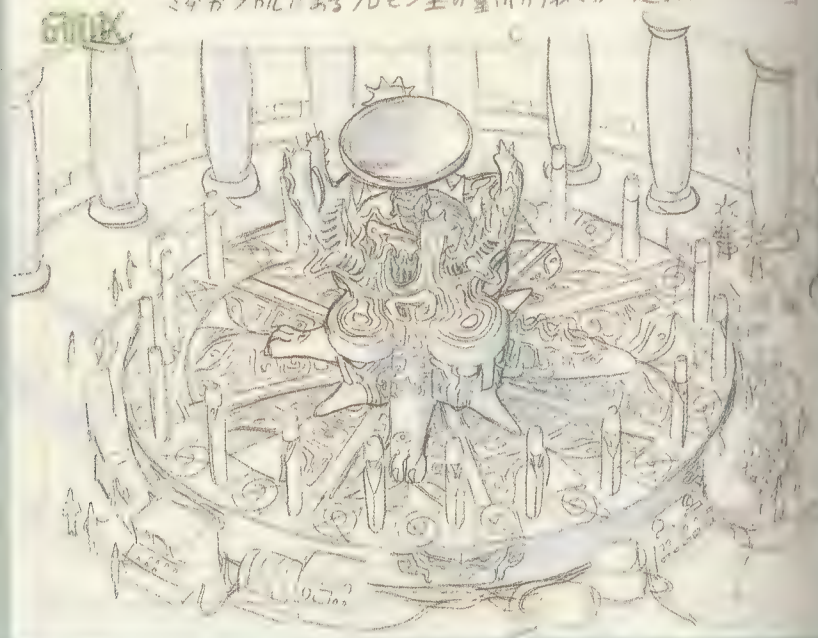
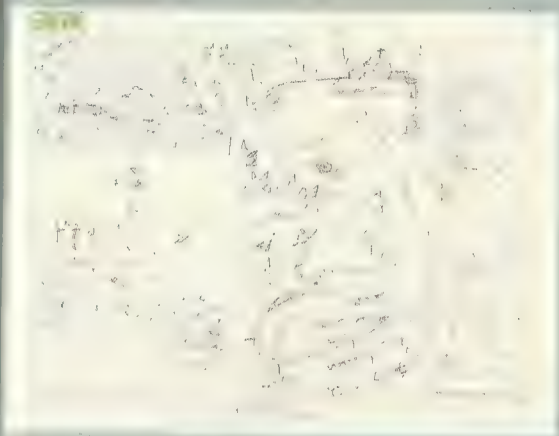
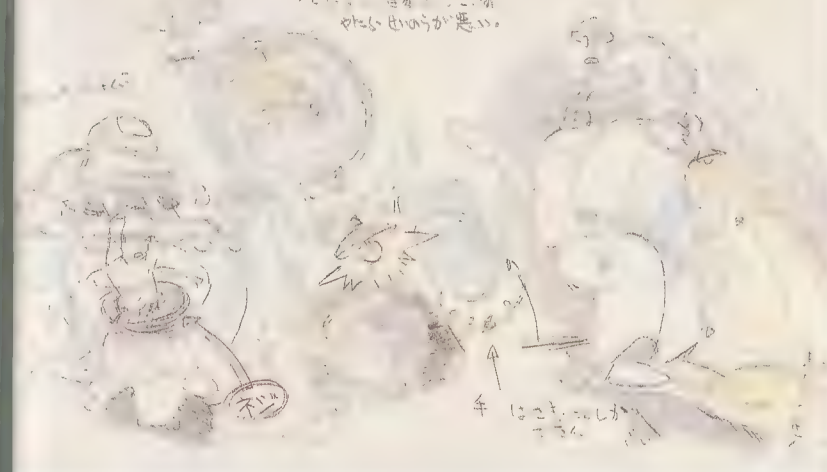
5話でジャンたちと出会う

マリー

ジャンとナディアが旅の途中で出会う少女。4歳。両親をガーゴイルの侵略で失っている。可愛いがちょっぴりわがままで生意気でもあるおしゃまな女の子。好奇心旺盛で何にでも興味を示す。ナディアを姉のように慕う。

ナディアと同じくサーカスの人気もの

ラフ・ボード
NADIA ROUGH BOARD

1 第13話。ガーゴイル基地中央（ ）ドック。中央にあるのは、ガー 水艦〝ガーフィシュ〟。

2 第13話。ネモ（ノーチラス号）対ガ （ガーフィシュ）の潜水艦同士の戦闘 雷による撃ち合いで構成。

3 第7・8話。衛星軌道上にあるエネル 反射衛星〝ミカエル〟（別名／しもべの 高エネルギー放出をコントロールする

4 & 5 ■ノーチラス号に装備されている潜水服。酸素ボンベタンク等も大きく、古典的なデザインが特徴。

6 ■孤島の海岸で海水浴を楽しむふたりのイメージ。水着の設定などは現代風のものが使用されている。

7 潜行を続けていたノーチラス号が浮上し、太陽の光を甲板上で楽しむグランディス。
8 漂流していた子ライオン、キングをノーチラス号上より救出するジャン。

9 水のなかに頭をつっこんで様子をうかがうキングを、水中より見上げたイメージ。
10 ガーゴイル基地のある孤島の草原で、キングと追いかけっこをする少女マリー。

ナディア・ワールド

NADIA WORLD

Based on the works by Jules Verne

THE SECRET OF BLUE WATER

解説やスタッフ&キャストインタビューを中心に「ふしぎの海のナディア」の世界をのぞいてみましょう。

11 波打ちぎわで遊ぶマリーを何者かが発見し近づいてくるイメージ。メカニック的なものの視点として描かれている。

自由な魂を持つ冒険者たち

田代　健（映像研究家）

「ふしぎの海のナディア」が始まった。ひさしぶりの正統の冒険小説タッチのTVアニメーションで、ジュール・ベルヌの「海底二万マイル」を原案にして、自由に物語を広げていくダイナミックなストーリー空間が期待される作品である。

　思えば「未来少年コナン」から始まったNHKの連続アニメーションだが、初期の東映動画の長編アニメーションにも似た指向を作品群に感じるのは私だけだろうか。「宝島」「ジャングル・ブック」「隊長ブーリバ」「ロビンソン・クルーソー」「十五少年漂流記」「海底二万マイル」「地底旅行」「宇宙戦争」「三銃士」「西遊記」「失われた世界」……かつて小学校の図書館で[illegible]い日常から解放される〝冒険の香り〟を放つ作品であった。

　親は「母をたずねて三千里」「小公子」や「小公女」「アルプスの少女ハイジ」「家なき子」等を読ませたがるのだが、子供にとってはどこか名作はかったるいのであった。

　東映動画の長編アニメーションは、冒険小説のタッチを持つ「少年猿飛佐助」「西遊記」「シンドバッドの冒険」「わんぱく王子の大蛇退治」「ガリバーの宇宙旅行」……と冒険に乗りだした主人公の波瀾万丈の活躍を描いていった。

　NHKは日本アニメに「未来少年コナン」を発注する際、小学校5、6年生の男子を対象にするという以外注文を出さなかったそう[illegible]ニメや漫画原作でもあるまい〟と名作アニメ＋冒険タッチを折りこむ娯楽作品を模索して「未来少年コナン」の企画がGOされたのである。

　続いて「キャプテン・フューチャー」（東映動画）「マルコ・ポーロの冒険」（エムケイ）「ニルスの不思議な旅」（学研・スタジオぴえろ）「名犬ジョリィ」（東宝・ビジュアル80）「太陽の子エステバン」（エムケイ、スタジオぴえろ）「子鹿物語」（講談社、エムケイ）「おねがい！サミアどん」（東京ムービー新社）「へーい！ブンブー」（日本アニメ）「アニメ三銃士」（学研、スタジオぎゃろっぷ）「青いブリンク」（手塚プロ）……と見てきても、冒険タッチを押しだした作品の方が伸びやかな[illegible]が[illegible]

寄稿文

いかなる[illegible]

[illegible]

その特徴をあげれば、次の3点であろう。

①日常性のある平凡な主人公から物語が始まる。日常性のあるドラマは、NHKは「少年ドラマ」「中学生日記」とお手のものであった。

②冒険に乗りだす主人公がどこの組織にも属さない少年であること。しかも、仲間には必ず大人が入り、同世代ではなく、背伸びもし、大人も助け、あるいは大人の経験の知恵で助けられ、主人公の視野が成長していく。ロボット・アニメ的なチーム物が「キャプテン・フューチャー」を除いてないのに注意。

③日常から冒険へと進み、大河ストーリーを経て、別れも含む日常へと主人公を帰還させる視点がある。子供向けの冒険小説の王道で、このラストが冒険の[illegible]

※　※　※

「ふしぎの海のナディア」にワクワクするのは、主人公のジャンとナディアがまきこまれる冒険ストーリーがアメリカ、イギリス、全世界をまきこむ大きさを持ち、海底というファンタスティックな空間を持ち、ノーチラス号と数々のSFメカという男の子の血を騒がせるガジェット性を持っていること、ジャンがナディアに感じる淡いラブ・ストーリーがあること（これは児童文学にとっても大切なのだ）、メインの登場人物がほとんど大人であること——作り手がしっかりと作劇さえすれば、ジャンとナディアやノーチラス号の乗組員、ネモ船長とともに、一九九〇年の日本という、家と学校、塾を往復して、決まったレールを生きる子供たちの日常から、その心を世界の果て、世界の秘密、冒険の陶酔[illegible]

　一九五〇年代生まれの人間には、ノーチラス号が小沢さとる描く「青の6号」だったり、円谷英二特技監督の「緯度0大作戦」だったりするのは、一目でわかってしまうが、それだけには終わらない作り手たちの努力とガンバリ、センスを信じて、子供たちに冒険の香りを堪能させてあげてほしい。頼むぜ、庵野総監督！

　人間は別にサラリーマンや奥さんになるだけが一生の道ではない。いろいろな生き方や進路があっていいのである。せめて心だけは、レールに乗って生きて欲しくない。フィクションの存在価値は、読んだり観たりするなかで、観客の心を冒険させ、リフレッシュさせ、人間らしくさせることにある。後半の物語の波瀾万丈さとともに自由を生きるさわやかさを闊達さをぜひ描きぬいてほしい！

●田代健（たしろけん）。1955年埼玉県生まれ。特撮関係を中心とした映像研究家

▲1889年当時、文明、文化はヨーロッパが中心であり、18世紀後半より始まった産業革命も世界に広まり、科学・産業の発展には目ざましいものがあった。そして世紀末という点では現在と似ているといえよう（美術設定より）

ナディア世界の基礎知識

原作ものの多いテレビアニメのなか「ふしぎの海のナディア」は、ひさびさのオリジナル連続ものだ。テレビで毎週楽しむ前に、知っておくと、よりいっそう楽しめる、いくつかのことを紹介しよう。

●時代背景●

第1話の舞台は19世紀末、1889年のパリ。当時のパリはベルエポック（新時代）と呼ばれ、経済的にも文化的にも隆盛を誇っていた。第1話で描かれている万国博覧会は、フランス革命100周年を記念して開かれたもので、世界各国の物産や技術などが展示された。

ナディアとジャンが出会うエッフェル塔は、そのパリ万博用に建設されたものだ。

当時の世界情勢は、イギリス、ロシアをはじめとする帝国主義諸国――通称〝列強〟が、中国その他で植民地争いを繰り広げようとしており、非常に不安な情勢だった。しかし、その一方で、人々は産業革命以降、急速に進む科学の発達によるユートピアを信じていた。

つまり、不安定な時代だが、第1次世界大戦（1914年～18年）までの間、科学万能の20世紀を信じ、希望に燃えていた時代だったともいえる。

●原案との共通点●

オープニングのクレジットには〝原案ジュール・ベルヌ作「海底2万マイル」〟と表記されているが、ナディアとの共通点はいくつあるだろうか？　まず、潜水艦ノーチラス号、アメリカのフリゲート艦エイブラハム号、人物ではネモ艦長などは原作に登場している。

また、ノーチラス号が建造されたリンカーン島はベルヌの「神秘の島」に登場、エアトンという人物も、その作品に登場している。

◀パリ万博会場のイメージボードより。蒸気機関の発明が産業革命を起こし、イギリスから世界中へと広まっていった。パリ万博では、その後に発達した世界各国の技術や発明品が展示された。日本も薩摩藩が参加している

▶パリ万博会場イメージボードより。電気の放電実験をしているところ。当時は、電気はまだ本格的な実用にはいたらず、見せ物的な要素が強かった。このころのエネルギー源は石炭や石油などの化石燃料と呼ばれるものであった

▲クレマン・アーデルが製作した〝アビオン3号〟の復元機。本物は1897年に作られ、翼長は17メートル、総重量は400キロあった。動力として20馬力の蒸気エンジン2基を使っていたが飛ばなかった（フランス航空博物館蔵）

●ナディアの基本ストーリー●

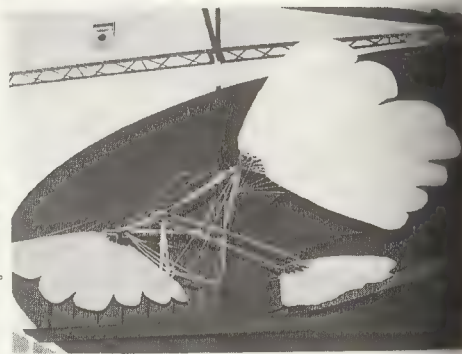
連続ものの場合、続けて観ないと話がつながりにくいものだが、ナディアの場合は基本的な部分が単純でつかみやすい。

謎の少女ナディア、彼女の持つ宝石をねらう悪人、少女を助ける少年、ふたりにかかわってくる謎の潜水艦、そしてその潜水艦が戦っている謎の組織というふうに、それぞれ明解な設定になっている。

ノーチラス号の冒険を縦糸に、ナディアに関わるキャラクターを横糸にしたシンプルな構成だといえる。

●リアルな時代考証●

ナディア世界のなかでは、当時、現実に存在したメカとそうでないものが一緒に登場する。それがいいかげんなものに見えないのは、現実のものをきちんと描くことで架空のものに存在感を与えることができるからなのだ。

◀アンリ・ファルマン復葉機。1910年にパリで開発された。当時のヨーロッパはちょっとした飛行大会ブームで、フランスばかりでなく、アメリカ、イタリア、ついにはエジプトでさえ開かれた（フランス航空博物館蔵）

▶19世紀末に考えられた人力羽ばたき飛行機の模型。基本的な構造は17世紀にレオナルド・ダ・ビンチが考えたものと変わりはない。

これらの試行錯誤を経て、プロペラ、エンジンつきの飛行機が誕生したのだ

●ネモ船長の正体は？●

ノーチラス号の船長、ネモは謎の多いキャラクターだ。なぜ、ガーゴイルのネオ・アトランティスと戦っているのか、19世紀の技術だけで、どうやってノーチラス号のような万能潜水艦を作れたのか、家族はいないのか、など、多くの謎を秘めている。そして、ネモという名前も本名ではないらしい。なぜなら〝ネモ〟とは、ラテン語で〝だれでもない〟という意味だからだ。

●ジャンの科学的才能●

第2話でジャンは自分の発明したエンジンつきの飛行機で、グランディスの追撃をふりきった。ところで、エンジンつきの飛行機を最初に発明し、飛行したのは1903年のライト兄弟であったから、それより13年も前に発明していることになる。将来は大発明家になることはまちがいなし――かな？

▲ノーチラス号　庵野監督はメカニックにはこだわるタイプなので、その描写にはキャラクター以上の情熱がそそがれているとか。メカファンには要チェックのシーンも多い。特に潜水艦対潜水艦のシーンは期待度大

▲グラタン。超科学を使わずに、これだけのものを発明してしまうハンソンは大天才かも。それにしても、ブルーウォーターを追うより、この発明を、どこかの国に売ったほうが儲かると考えたことはないのだろうか

●空想メカの楽しさ●

ナディアには超科学で作られたメカがたくさん登場する。それらが他のSFアニメと大きくちがう点は、ある程度のリアリティを押さえているという点だ。また、ノーチラス号浮上時の排水描写など、まるで特撮映画のようなカット割りと描写が楽しめるのも魅力だ。

THE SECRET OF BLUE WATER

ナディアインタビュー

[NADIA スタッフ CREW]

Staff

アニメーション部分の製作で、中心的な役割をつとめているのが、ハイナックスという会社です。総監督の庵野さんをはじめ、スタッフは皆、若者ばかり。この若者パワーが「ナディア」を作っていく原動力かもしれません。

総監督

HIDEAKI ANNO

庵野秀明

NADIA

ナディアでは自分をさらけだすまねをしているから、すっごく恥ずかしいですね。

——総監督とは、どういう役割なのか教えていただけますか？

「設定、脚本、コンテのチェック、それに原画、美術、動画、フィルムなど、あらゆる部門のチェックが主な仕事です」

——仕事をしていておもしろいと思うことは？

「スケジュールがきついという点をのぞけば楽しいですよ。趣味は仕事ですから(笑)。この作品にかぎらず、フィルムを作っていく作業というのはとてもおもしろいですね」

——この作品の見どころは？

「このナディアを作っていて、最近思い始めているのは、このままボクが考えているとおりに作れれば、テレビアニメ作品、30年のノウハウすべてを、この39本に凝縮できるかもしれないということです。

……すでに段々そうなりつつあると思っていますが……」

——作っていてむずかしい部分というと、どんなところでしょう？

「いろいろあるので、とてもひと口では説明できません」

——お気に入りのキャラクターはいますか？

「ライオンのキング。それにサンソンとエレクトラです」

——ナディアはどうですか？

「なかなかつかみどころがなくて、むずかしいですね」

——というと？

「ナディアというキャラクターは、良くも悪くも、ぼく自身が投影されているキャラクターなので、ぼくのイヤな部分が入っているんです。自己矛盾のかたまりで、言動が支離滅裂で、ときとして二重人格じゃないかと思うときさえあります。

悪いことに、彼女自身は、そういう言動や行動を悪気でやっているんじゃないんです。

また、ジャンもナディアと同じく設定の血液型がA型なので、キャラクターが見えてしまって、かえって動かしにくいという点があります」

——A型の人の特徴はどういうところですか？

「感情よりも理屈が先行するマジメなタイプです。でも、内面では感情の起伏を押えようとして、すごく苦しんでしまうことが多いんです。

ナディアの場合は、登場するキャラクターは、設定ではO型とか書いてあっても、じつは全員A型[illegible]詰めて進んでいきます」

——最後にお聞きしたいんですが、この作品について、一番多く受ける質問を、教えていただけますか？

「この作品のテーマは何かという質問です」

——なんとお答えになってます？

「……ありません(笑)と答えていますが、正直なところ、それは作品を理解してほしいと思っています。とにかくいまは制作に全力投球です」

▲「風の谷のナウシカ」より。巨神兵の原画を担当

▲初監督を務めたOVA作品「トップをねらえ！」

PROFILE

庵野秀明(あんのひであき) 1960年生まれ。山口県出身。大阪芸術大学在学中に「超時空要塞マクロス」テレビシリーズの原画を担当。以降「風の谷のナウシカ」「うる星やつら」などの原画に参加し「王立宇宙軍／オネアミスの翼」でスペシャルエフェクトアーチストを務める。

キャラクターデザイン
YOSHIYUKI SADAMOTO
貞本義行

――この作品で、最初に参加したときのことをお教え願いますか。

「NHKで開かれた番組会議で、アニメーション制作会社グループ・タックの田代(敦巳)さんから参加してみないかというお話しがあって、2日ぐらいでナディアとジャン、マリーとキングとネモ、そしてノーチラス号のイラストを起こしたのがきっかけです」

――それはいまのものとはだいぶ変わっているんですか？

「ええ、たとえばナディアはいまよりもハダの色が濃くて、髪の毛もウェーブがついたものでした」

――ところで、ナディアのキャラクターデザインを描いているときに注意した点というのはありますか？

「描きやすさを意識して作っています」

NADIA ナディアでは主人公クラスの目を大きくして、描きやすさを追求してみました。

――具体的には？

「ぼくの画は本来リアル志向なんですけど、今回、ナディアをはじめとする主人公クラスは全部、目を大きくしているんです。そうして、アニメーターの人の描きやすさをねらってみました」

――キャラクターデザインというのは、キャラクターの設定だけを描く仕事なんですか？

「いいや、肩書き上はキャラクターデザインですけど、原画も担当してますし、作画監督と総監督の指示で、リテーク作業(できあがったフィルムを、もう一度作り直すこと)のときに、実質的な作画監督のようなこともします」

――現在の仕事のスケジュールはいかがですか？

「メインはキャラクターデザインですが、あとは版権関係(キャラクターグッズのノートとかオモチャのパッケージ用の絵など)が中心ですね」

[illegible]が(メカを操縦する)椅子に座っている場合が多いので、動きにも限界があるんです」

――なるほど。あと、デザイン上で苦労することはありますか？

「登場キャラクターの服装ですね。当時(19世紀)らしさのなかに、いまの感覚を取り入れて、デザインしてます。たとえば、ナディアの水着などは、昔のデザインのようなものはやめてわざとビキニにしています。昔のままだと、どうしてもヤボったくなるので……」

▲「ロボットカーニバル」では北久保作品のデザ

――ナディアでおすきなキャラクターは？

「キングとグランディスです」

――この作品に参加していて楽しいことを教えてください。

「人の描いた原画とかを見ることができることですね。いろいろな意味で勉強になるし」

▲作画監督・キャラクターデザインを担当した「王立」

――今後、ナディアでやってみたいことはありますか？

「ガイナックスで作る物はメカがからむから、どうしてもメカのほうに作画の比重がいってしまうので、もっとキャラクターが、ガンガン動きまわる回をやってみたいですね」

PROFILE

貞本義行(さだもとよしゆき)1962年生まれ。山口県出身。主な参加作品は『王立宇宙軍/オネアミスの翼』(作画監督、キャラクターデザイン)『トップをねらえ!』(設定、作画監督、原画)『ロボットカーニバル』(キャラクターデザイン)。趣味はバイクと車。今後は、マンガも描いてみたいとのこと。

NADIA

ノーチラス号のデザインはモロに総監督の趣味の世界です（笑）ほんと。

設定デザイン
MAHIRO MAEDA
前田真宏

PROFILE
前田真宏（まえだまひろ）。1963年生まれ。鳥取県出身。主な参加作品は「王立宇宙軍」「風の谷のナウシカ」「天空の城ラピュタ」。趣味はバイク。すきな映画は「ウォーカー」と「グレートブルー」。す[illegible]

――前田さんがナディアで担当されている設定というパートは、どんなお仕事なんですか？

「ノーチラス号のようなメカニックから、歯ブラシみたいなものまで、いろいろデザインするんです」

――ノーチラス号のデザインについて少しお話しして下さい。

「ノーチラス号はモロに庵野総監督の趣味です（笑）。

昔の東宝映画などに登場したスーパーメカの影響が出ているんです。ディズニープロのデザインしたノーチラス号が有名ですけど、[illegible]ザインがある（笑）と……だからノーチラス号はホントに総監督の趣味なんです」

――ところで、ノーチラス号にかぎらず、ナディアのデザイン上で注意している点はありますか？

「描きやすさです。それもアニメーターばかりじゃなく、テレビを観た子どもたちが、マネして描けるようなものを目指してます。最近のメカは複雑になって、描きにくいですから。シルエットでハッキリわかるようにしようと思っています。

あと、昔のアメリカのパルプマガジンであったような、レトロフューチャー（古典的未来像）なデザインを意識しています」

――今後の希望はどういうものが。

「美しくて愛らしく、岩のように頑丈で風化せず、しかもC調でいいかげんでユルイところもある。そんな作品を作ってみたいです[illegible]

[illegible]タイプの作品なので、新鮮じゃないでしょうか。

作画監督
SHUNJI SUZUKI
鈴木俊二

PROFILE
鈴木俊二（すずきしゅんじ）。1961年生まれ。東京都出身。主な参加作品は「タッチ」「めぞん一刻」「パトレイバー第7巻」（OVA）など。趣味はルアーフィッシング。すきなアニメは、観るのはギャグ、描くのは生活密着型。

――作画監督とは、どういうお仕事なんですか？

「原画の修正、芝居の演技をつける演出家というところでしょうか」

――貞本さんのデザインはむずかしいですか？

「貞本さんのキャラは、基本的に貞本さんにしか描けないと考えています。ぼくなりに似せる努力はしていますが……」

――コツはありますか？

「目を似せることです」

――現在（4月上旬）、鈴木さんは何話を担当されていらっしゃいますか？

「いまは第12話です。これまでに[illegible]を担当しています」

――ナディアという作品をどう思いますか？

「いままでというか、ここしばらくアニメが忘れていたドラマツルギーみたいなものと、基本的な動きを見直してみようという作劇テーマがあるので、新鮮じゃないかと思います。いまの視聴者には新鮮じゃないかと思います」

――見どころといったところは？

「ドラマ描写はリアル指向なので、見どころのひとつです。とくに第3話のノーチラス号対敵潜水艦のシーンでは、（潜水艦に）注水したりアップトリムをかける描写はないものの、リアルな感じになっています。気分的にはマンガの『沈黙の艦隊』を意識しています」

――ところで大変お忙しいようですが。

「1話と3話には、それぞれ10週間ぐらいかけていたんですが、いまはもう社内総がかりで原画をやっています」

ナディアでは毎月40枚~50枚を描いているので、ハードな毎日が続いています。

美術監督
MASANORI KIKUCHI
菊地正典

PROFILE
菊地正典（きくちまさのり）。1959年生まれ。兵庫県出身。主な参加作品「妖精フローレンス」（パイロット版）「ユニコ2」「王立宇宙軍」「トップをねらえ！」など。すきな映画は「ベンハー」と「ブレ

――美術というのは、おもに背景とか、風景を設定していくお仕事ですか？

「ええ、とくにテレビシリーズの場合は、毎回設定が変わるので、その点数も多くて大変です」

――ナディアは毎回舞台が変わるので、回ごとに新鮮な気分で仕事ができると、もうひとりの美術の佐々木さんがおっしゃってましたが。

「うまいいいかただなァ（笑）。そういういいかたもありますね。でも、やっぱりキツイですよ」

――毎回どのくらいの量を描き起[illegible]

「回によってちがうんですが、月に平均して40~50枚くらいの美術ボードを描かなければなりません」

――それはほかの作品と比較して多いほうですか？

「ええ、さらにブック合わせ（背景とセルの上に置く絵――たとえば手前にある椅子など）もあるので、その手間が大変です」

――それはどうしてですか？

「ナディアの場合、撮影は韓国で行っているので、ボードに合わせて向こうに送らなければならないんです。その合わせなど、細かい部分がどうしてもむずかしいですね」

――美術に使っている絵の具はなにか特別なものですか？

「いいえ、普通のポスターカラーです」

――仕事のモットーはありますか。

「今回にかぎり、普通のものを普[illegible]

[illegible]の勝負のため体力をきたえています（笑）。

美術監督
HIROSHI SASAKI
佐々木洋

PROFILE
佐々木洋（ささきひろし）。1960年生まれ。千葉県出身。主な参加作品「火の鳥」「シリウスの伝説」「おしん」「妖精フローレンス」「王立宇宙軍」「トップをねらえ！」など。すきなアニメ作品は「プロジェクトA子」など。

――佐々木さんは美術で、菊地さんと同じパートですが、お仕事は各話ごとに区別しているんですか。

「第6話までは共同で作業していましたが、いまは各話ごとに担当しています」

――ナディアは設定が多いので苦労も多いのでは？

「ナディア以外にも、最近のアニメは皆、ブック分けが多くなっているので、その手間が大変ですね。

でも、ぼくはサンリオアニメ出身で、サンリオ当時はブック作業が多かったのでなんとかなっています」

――やはりお仕事は忙しいですか

[illegible]毎月40~50枚。それにぼくはフリーなので、ほかの美術の仕事もありますから、合計すると月に70枚くらい描いてます」

――それは……多いですね。単純に1日2枚強ですか

「はい。ですから体力勝負をすることになります」

（ここでガイナックスと同じフロアにあるゼネプロ社員の宮原氏登場）

宮原「佐々木さんは、体力トレーニングの器具をスタジオに持ちこんでいるんで有名な人です（笑）」

――ところで、今後の希望とかありましたら教えていただけますか

「コストと手間のかかった、リアリティを無視した破天荒な劇場アニメに参加してみたいですね」

――すきな画家のかたとかいらっしゃいますか？

「アニメ関係だと小倉宏昌さん、男鹿和雄さん。画家だとジミー・ワイレスの水彩画がすきです」

プロデューサー
HIROSHI KUBOTA
久保田弘

——プロデューサーとは、具体的にどういうお仕事なんですか？

「うーん。ひと口に説明するのはむずかしいけれど、アニメーション作品にかぎらず全部の仕事のプランナー（企画者）であり、まとめ役であり、決定者ということでしょうか。

つまり、プロデューサーの仕事は、まず、どんな作品を作るかというところから始まって、そのプランを実現化するために動かなければならない。それには制作会社を決めたり、スタッフ、そのほか作品の出演者——配役まで決めなくちゃいけないんです」

——なるほど。ところで、今回はじめてガイナックスと仕事を組んだわけですけど、あえて新しい会社と仕事を始めたのはどうしてですか？

「制作のグループ・タックは、いままで良心的な作品を多く作っているところが。ガイナックスは職人集団というよりも、アニメずきな人たちが、いい意味でのアマチュアリズムをくずさずに作っている点が。気に入ったんです。

ガイナックスとは前から仕事をしてみたいと思ってました。若い人たちは何を考えているか。彼らから教えてもらおう。そう考えて仕事をお願いしました」

——ガイナックスと仕事を組んでみた感想はいかがですか？

「普通の制作会社のように、こちらの頼んだとおりにやるのではなく、知恵をしぼって、作品を作り上げていこうというところが大きいですね。ねばり強さとパワーもあるし、それに何より頑固です（笑）。

もし、このまま庵野総監督をはじめとするスタッフが安易に妥協せずに、ナディアを作り続け、最後までやっていければ大傑作になると思います」

——それは楽しみですね。ところで、この作品のテーマとかねらいを教えていただけますか？

それは、原案となったJ・ベルヌの考えていたことと同じです。彼は19世紀後半に、人類の科学の進歩をある程度予想していたわけですが、その作品のなかでは、人間と自然が仲良く暮らしていこうということと、科学の進歩というプラスの面だけでなく、それによって作られてしまう兵器などの恐ろしさなども語っています。

彼が地球全体のレベルで考えてい[illegible]け[illegible]いま[illegible]時代の地球に置き換えても、充分通用する考えなんですね。

それから、この番組は本編が25分あった後に、視聴者のかたからのイラスト紹介つきの予告編が30秒あって、その後に動物たちの生態を撮影した3分間の映像を紹介しているんです。

「その3分間のなかにこの番組でいいたいこと、伝えたいことをかなりストレートに表現しているので、ぜひ観て下さい。

両方見ることにより、この作品のテーマが良くわかりますから」

動物と人間が仲良く暮らせる世界。それがナディアの願いであり、番組のテーマです。

▲久保田さんのアニメ初作品「アニメ三銃士」

▲「三銃士」と同じで「ナディア」も最初はパリか舞[illegible]

PROFILE

久保田弘（くぼたひろし）。1935年生まれ。東京都出身。NHKで「お笑い3人組」など、バラエティ番組を手がけ、手塚治虫原作の「ふしぎな少年」で、児童向き番組を手がけるようになる。アニメ作品は'88年の「アニメ三銃士」がはじめての作品。現在、総合ビジョン・プロデューサー。

音響監督
KATSUNORI SHIMIZU
清水勝則

ナディアは、なるべくBGMを使わずに自然に近い音を新録音して使っています。

——音響監督とは、どういうお仕事なんですか？

「まず、アフレコ（アフター・レコーディングの略。完成したフィルムに音をつける作業）のときに、出演者に演技をつけたり、ダビング（録音したセリフに、効果音と音楽を加える）作業、ゲストの出演者の人選を行ったりします」

——ナディアの録音上で、総監督の庵野さんから、なにか特別に指示があったことはありますか？

「そうですね。サウンドエフェクトは、より自然に近い音楽を使って欲しいといわれているので、いくつか新録音しています」

——たとえばどんな音ですか？

「風車の音とか、波の音とか……」

——そういえば、ノーチラス号には、潜水艦の効果音でよく使われる〝ピコーン、ピコーン〟というソナー音は使われているんですか。

「いいえ、ソナーはないという設定なので、そういう音はありません」

——ところで、キング役にハンソン役の桜井さんを選んだ理由を教えていただけますか？

「単純にライオンなので、男性を使おうと思ったからです」

——ナディアの場合、アフレコのときに注意している点はありますか？

「この作品は、いままでのものと比べてセリフの量が多いので、あまりうるさくならないように注意してます」

——そのセリフの量が多いということのほかに、ほかの作品とちがう部分はありますか？

「極力ちがうといえば、BGMが少ないという点です。普通、音楽で情感の表現をする場合が多いんですが、この作品の場合は絵が良く動いているので、セリフとサウンドエフェクトで演出が充分できるんです」

——ナディアを演出していて楽しい点はありますか？

「キャストは若い人が多いので元気があって楽しいですね」

——では、逆に苦労する点は？

「ダビングのときですね。これはナディアにかぎらず、ほかのアニメにもいえることなんですけど、いま録音スタジオの数が少なく、逆にアニメの量が多いので、ダビングの時間があまりとれないんです」

——つまり、もっと余裕を持って仕事をしたいと。

「ええ」

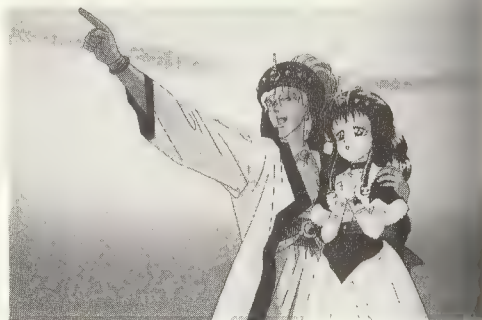
——ナディアで使用されているBGMは何曲ぐらいありますか？

「細かいブリッジ（短い曲）を入れて、現在、100曲ぐらいです」

——話は変わりますが、清水さんの演出された作品で、お気に入りのものはなんでしょうか？

「アニメじゃないんですが『ミスターソウルマン』という洋画です。すきなタイプの映画なので、自然と熱が入りました。

そういえば、あの作品の主人公も偽者だけど黒人でしたね（笑）」

▲「ミスターソウルマン」（写真提供日本ヘラルド映画）

▲現在放映中の「トンデケマン」にも音響監督として

PROFILE
清水勝則（しみずかつのり）。1950年生まれ。北海道出身。初音響監督はタツノコプロの「タイムボカンシリーズ 逆転一発マン」。現在「ふしぎの海のナディア」のほかに「まじかるハットくん」を担当。また、単発の洋画作品の音響監督も担当している。ザックプロモーション所属。

THE SECRET OF BLUE WATER

ナディアインタビュー

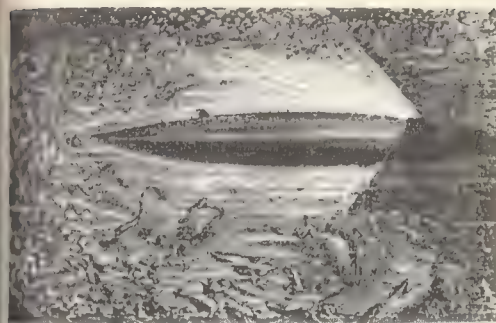
[NADIA 声優 VOICE ACTOR]

Cast

「ふしぎの海のナディア」のキャストは、ほかのアニメ作品よりも若者が多いのです。だから、スタジオ内はいつも元気でいっぱい。楽しそうにお仕事をする姿が、とても印象的でした！　皆さん、がんばって応援してね。

雑学コラム ノーチラス号アラカルト

ナディアに登場するノーチラス号。J・ベルヌが「海底2万里」のなかで命名したその名前は、いまでは潜水艦の代名詞といっていいくらい有名だ。

〝ノーチラス〟とはオウム貝のことだ。巻貝のようなからと、タコのような体を持った軟体動物で、生きた化石といわれている。ベルヌが小説の潜水艦に命名したその名を、そのままつけたのが1954年に建造されたアメリカの潜水艦だ。この潜水艦は世界初の原子力潜水艦であり、まさにJ・ベルヌが名づけた潜水艦にふさわしい性能を持っていた。

▲フランスの画家、A・ド・ヌヴィル描くノーチラス号。1827年刊行の「海底2万里」初版本に掲載されたさし絵

▲世界ではじめて北米洋を潜航し、北極に達する記録を作った実在のノーチラス号。写真はレベル社の模型の箱絵

▲1954年に公開された「海底2万マイル」のノーチラス号のイメージイラスト

Cast

NADIA

ひさびさに、ワクワクするアニメです。毎週楽しみにしてください。

鷹森淑乃(たかもりよしの)。千葉県出身。「超力ロボガラット」(84)のパティ役でデビュー。射手座のA型。趣味はゴルフと音楽鑑賞。ア[illegible]所属
PROFILE

――鷹森さんがいままで出演した主なアニメ作品を教えて下さい。

「デビュー作は、サンライズの『超力ロボガラット』です。その後『炎[illegible]

[illegible]ディ役を演じました。あと最近では『マンガ日本経済入門』『超音戦士ボーグマン』『YAWARA!』などがあります」

――そのなかで気に入っている作品はありますか?

「どの作品も思い出深いし、愛着があるので、どれかひとつというわけには……しいていえば全部ですね」

――ナディアに参加してみて、この作品をどう思っていますか?

「ひさびさにワクワクするアニメだと思います」

――それはどうしてですか?

「物語が連続ドラマで、しかもスケールが大きいということもありますが、演じている私がすごく楽しいのですから、絶対におもしろいんです(笑)なんちゃって」

――ナディア役は演じやすいですか。

「ええ、私と同じ血液型――A型

Cast

NADIA

ジャンはいい子でかわいくて大すきなキャラです。みんなジャンを応援してね。

日高のり子(ひだかのりこ)。東京都出身。主な出演作は「タッチ」「となりのトトロ」「アニメ三銃士」「らんま½」「パラソルヘンベえ」。河野プロモーション所属。
PROFILE

――日高さんのデビュー作を教えて下さい。

「毎日放送の『超時空騎団サザンクロス』のムジカ役です」

――いままで出演したなかで、お[illegible]作品[illegible]はありますか?

「そうですね『タッチ』の南役とか『となりのトトロ』のサツキ役とかいろいろあるけれど、私もいままでやった作品を全部というのが本音です」

――NHKのアニメは「アニメ三銃士」に続いて2度目ですね。

「はい」

――ナディアは参加してみてどうですか?

「毎回、どんな話になるのか、楽しみながらアフレコに通っています」

――ほかになにかありますか。

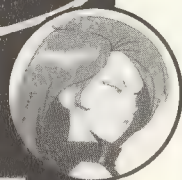
「絵もとってもキレイだし、なんといっても私が演じているジャンはいい子で、かわいくて大すきなキャラクターです」

――最後に、この番組を観ている人たちにメッセージをいただけますか。

「みんなジャンを応援してね」

グランディスは本当の悪役ではありません。皆さんかわいがってあげて下さいね。

滝沢久美子 KUMIKO TAKIZAWA

PROFILE

滝沢久美子（たきざわくみこ）。東京都出身。主な出演作「ザ・ウルトラマン」「超時空世紀オーガス」など多数。趣味は犬の散歩。B型のしし座。バオバブ所属。

——滝沢さんのデビュー作の作品名と役を教えて下さい。

「『風船少女テンプルちゃん』のテンプルちゃん役です」

ありますか?

「『ゼンダマン』のさくらちゃん、『新・鉄人28号』の牧子『ニルスの不思議な旅』『アンネの日記』『ひらけ！ ポンキッキ』のアップルポップのポーナ母さんなどがあります」

——お気に入りの役はありますか。

「テンプルちゃんと『銀河漂流バイファム』のケイト役とルチーナ役です」

——最近では「魔動王グランゾート」のスナービ役がありましたね。

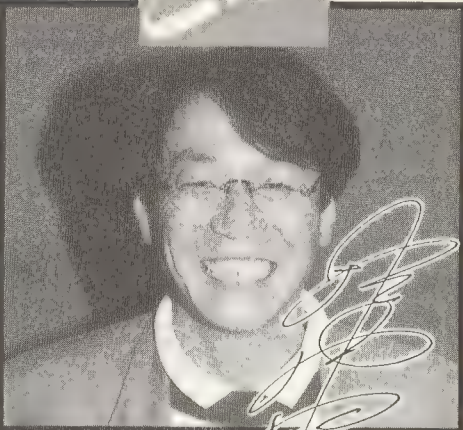
「ええ、あのときは、皆にオバサン、オバサンと呼ばれてちょっと嫌だったけど、絵を見てたらキレイなんで嬉しかったですね（笑）」

——「ナディア」ではグランディスというナディアを追う役ですが、演じていてどうですか?

「グランディスは決して、本当の悪人ではありません。ですから、愛して下さいね。よろしくおねが

サンソンも、ただいけないだけの男じゃありません。今後の活躍に期待して下さい。

堀内賢雄 KENYU HORIUCHI

PROFILE

堀内賢雄（ほりうちけんゆう）。静岡県出身。「よろしくメカドック」「機動戦士ガンダムZZ」など出演作多数。B型のしし座。趣味は野球とゴルフ。バオバブ所属。

——デビュー作品名と役名を教えて下さい。

「最初に声をアテたのは『アンドロメロス』のアンドロメロス役で、アニメじゃないんです。アニメ作

ーリアン』のハンス・シュルツ役がデビュー作になります」

——そのほかの出演作も教えていただけますか?

「『キャプテン翼』の滝一『地球防衛軍テラホークス』のゼロイド18号『トランスフォーマー』のハウンド役など、いろいろとあります」

——気に入っている作品はどれですか?

「『炎のアルペンローゼ』のナレーター役です。それと、この『ふしぎの海のナディア』です」

——堀内さんは、知的で線の細いキャラクターを演じているのが多いようですね。

「そうですか（笑）。でも、サンソンはチョっといままでとはちがうキャラですよ。私たち悪役3人組の今後の活躍に期待して下さいッ！」

番組を観ていて気づいたことがあったら意見を聞かせて下さい。お願いします。

桜井敏治

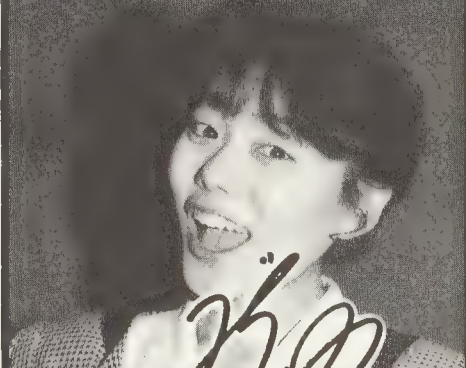
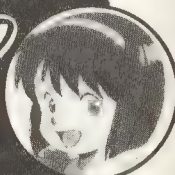
TOSHIHARU SAKURAI

PROFILE
桜井敏治（さくらいとしはる）。東京都出身。「キャッツアイ」でデビュー後「マシンロボ」「超音戦士ボーグマン」などに出演。趣味はスポー[illegible]

——デビュー作を覚えていますか
「『キャッツアイ』の刑事Cです（笑）」
——いままで出演したなかで気に
[illegible]
「『マシンロボ・クロノスの大逆襲』です」
——桜井さんはハンソン役のほかに、じつはもうひとり、レギュラーキャラクターを演じていますね。
「キング役ですね（笑）。あの役は番組がスタートする前に、レギュラーの何人かで声をアテてみて、音響監督の清水さんが選んだんです」
——第1話ではエッフェル塔の上で、ハンソンとキングが同時に登場していますが、そういうときの演技はむずかしくないですか？
「そうですね。でも、キングはライオンだから、人間とちがってセリフもしゃべらないし、そうむずかしくはないんですよ」
——スタッフにはキングは人気があるみたいですね。では、最後にメッセージをいただけますか。
「3人組を応援して下さい。また、テレビを観て、気づいたことがあ
[illegible]

[illegible]マリーは、この番組のアイドル的な存在です（笑）。

水谷優子

YUKO MIZUTANI

PROFILE
水谷優子（みずたにゆうこ）。愛知県出身。主な出演作は「赤い光弾ジリオン」「F」「天空戦記シュラト」など。O型のさそり座。趣味はテニス。バオバブ所属。

——水谷さんのデビュー作と役名を教えて下さい。
「『機動戦士ガンダム』のサラ・ザビアロフ役です」
——現在、ナディアのマリー役以
[illegible]
「『ちびまる子ちゃん』のお姉さん役と『キャッツ党忍伝てやんでえ』のおみつ役です」
——いままで出演した作品でお気に入りのものはどれですか？
「最近では『天空戦記シュラト』のラクシュ役。ちょっと前だと『赤い光弾ジリオン』のアップル役『マシンロボ・クロノスの大逆襲』のレイナ役です」
——美少女役ばっかりですね。
「（笑）」
——ところで、ナディアで演じているマリーという女の子はどういう役ですか？
「うーん、今日（4月19日）録音したのは第8話で、まだ登場したばかりなのでちょっと……でも境遇のわりに元気で明るい女の子です。ナディアの連れているキングとは仲良しになるんですよ」
——最後になにかメッセージを
「ぜえったい！　みて下さいネ」

Cast

NADIA

見ている人は、ひとりにつき10人視聴者を増やしてね！

大塚明夫

大塚明夫(おおつかあきお)。東京都出身。デビュー作はOVA「機甲猟兵メロウリンク」。趣味はオートバイ、草野球などいろいろ。B型

PROFILE

——デビュー作と役名を教えて下さい。

「オリジナルビデオアニメの『機甲猟兵メロウリンク』のキーク・

——出演作のなかでお気に入りの作品は？

「『メロウリンク』と、この『ナディア』ですね」

——『ナディア』ではネモ船長という渋い役ですが、演じていてどうですか？

「セリフが少なくて、かつ存在感を出さねばならないんでむずかしいですね。あと、ずっと年上の設定なので、ネモはぼくより落ち着いた感じを出すように注意しています」

——この番組を観ている人になにかメッセージをいただけますか。

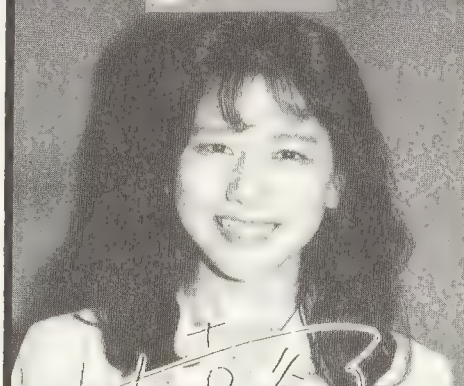
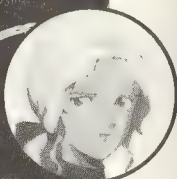
「『ふしぎの海のナディア』を観ている人は、ひとりにつき10人、視聴者を増やしてね！　これからますますノーチラス号も活躍するので、ぜひ期待して下さい」

——ほかにもなにかありますか

「ネモ船長の正体はじつは……。それは番組の後半で明らかにされ

Cast

NADIA

エレクトラはナゾがいっぱいです！色々想像して楽しんで下さい。

井上喜久子

井上喜久子(いのうえきくこ)。神奈川県出身。主な出演作は「らんま1/2」「ミラクルジャイアンツ童夢くん」。O型のてんびん座。趣味は詩を書くこと。江崎プロ所属。

PROFILE

——井上さんのデビュー作を教えて下さい。

「私はデビューがアニメ作品じゃなくて、外国映画の吹き替えなんです。日曜洋画劇場で放映された

作です」

——アニメのデビュー作はなんですか？

「『らんま1/2』の天道かすみ役です」

——いままでで気に入っている出演作はありますか？

「ワーナーホームビデオで発売された『グーニーズ』の日本語吹替版です。」

——アニメ作品で、ほかに出演した作品はどんなものがありますか。

「『ミラクルジャイアンツ童夢くん』です」

——井上さんはエレクトラ役ですけれど、彼女はどういう役柄ですか？

「エレクトラは、ノーチラス号のネモ船長の副官ですけど、謎がいっぱいのキャラクターです。色々想像して楽しんで下さい」

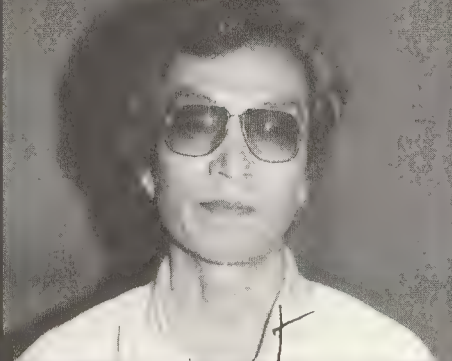
——ミステリアスなキャラというわけですね。

ガーゴイルの素顔は私も知りません。でも単なる悪人ではないと思います。

——清川元夢(きよかわもとむ)。東京都出身。「機動戦士ガンダム」をはじめ、多数の作品に出演。趣味は芝居、血液型はAB型。俳協所

PROFILE

——清川さんがいままで出演されたアニメ作品のなかで、気に入っている作品はありますか?

「『機動戦士ガンダム』ですね」

ていますか?

「ええ、テム・レイです」

——ガンダムの開発者で、主人公アムロの父親ですね。たしか、後半登場したときは酸素欠乏症で、少し精神に異常をきたしているという……。

「ええ、それまでのアニメ作品とちがって、ガンダムはいろいろな意味で、画期的な作品でしたね」

——なるほど、ところでナディアでは素顔が謎に包まれたガーゴイルの役を演じているわけですが、彼はどういうキャラクターですか。

「ある意味において、自分自身の野望を達成しようという、きわめて業が深いというか人間らしいキャラクターですね」

——マスクの下はどうなんでしょう?

「さあ、私もまだ見せてもらってませんから……。とにかくネモ船長とは浅からぬ因縁があるという

ジ・アートオブナディア

この番組の主役(?)ともいうべきメカニックと、本編をよりいっそう引き立てている美術の紹介です。キャラクターとは一味ちがう魅力を楽しんで下さい。

THE SECRET OF BLUE WATER

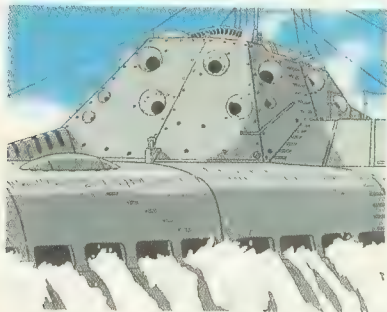
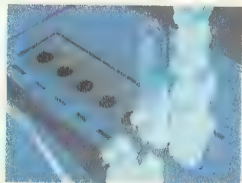
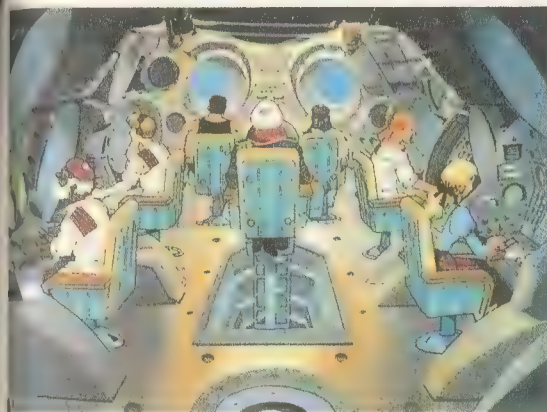
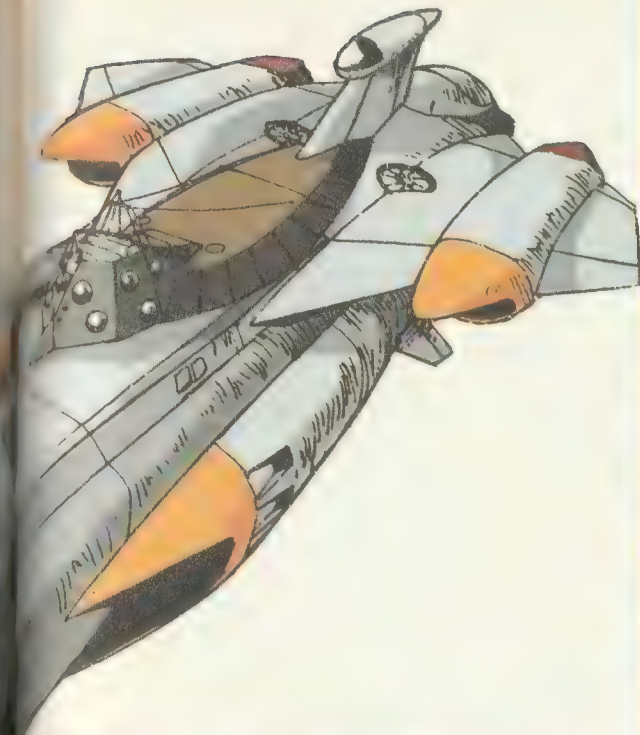
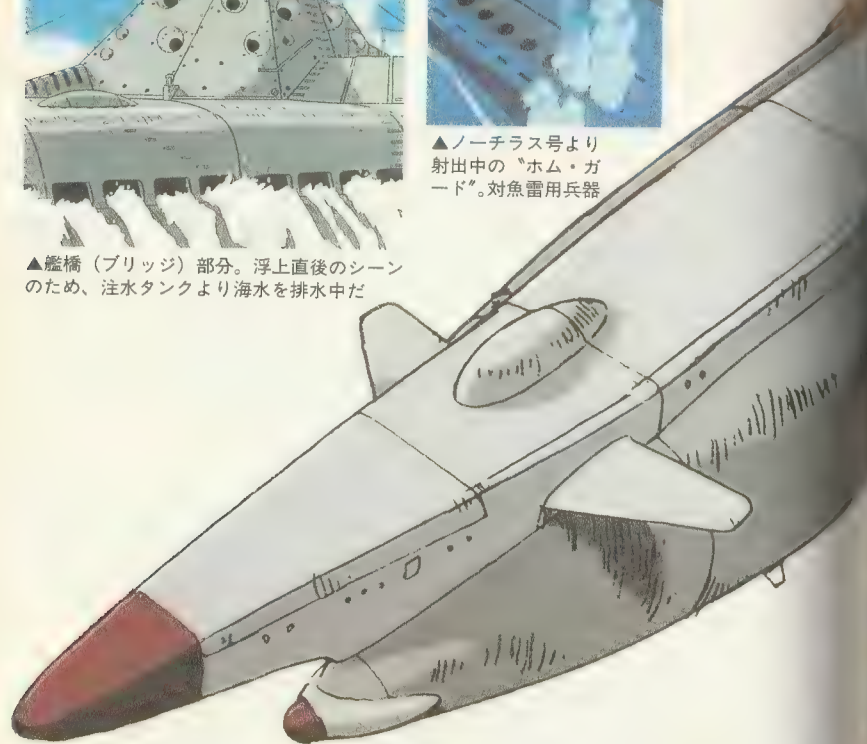
NADIA MECHANICS

メカニクス

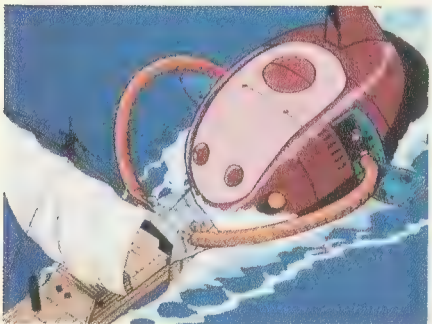
ときとして登場キャラクタ…より…的に描かれ、画面をさらってしまうナ…アのメカニック群。その秘…ロ…ーチャー（古…未来）デザ…より

▲艦橋内部。ノーチラス号の中枢。中央が艦長席

ノーチラス号

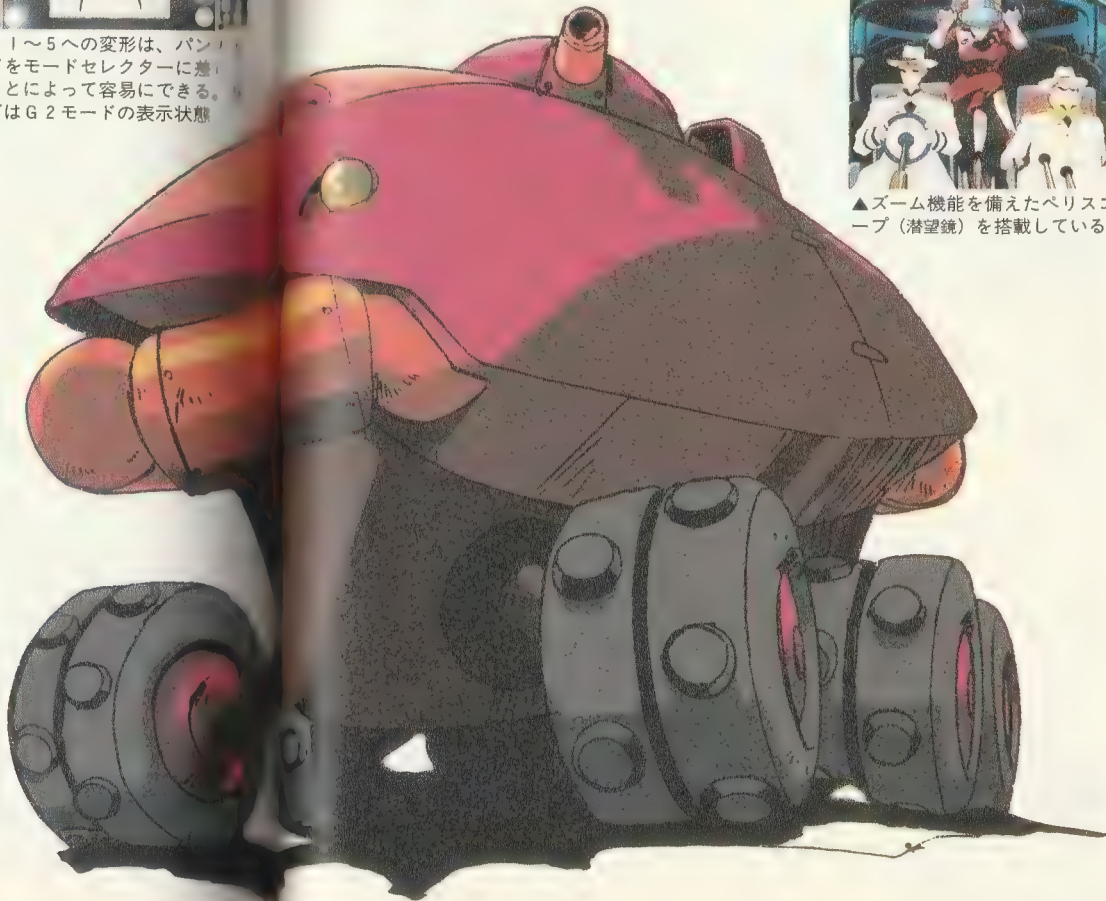
全長／約152m、最大速力／108ノット（時速に換算すると約200キロ）。19世紀末の科学レベルをはるかに超えた万能潜水艦。ネモ船長とその同志が十数年の歳月をかけてリンカーン島の地下ドッグで建造した。常温対消滅エンジンを搭載し、半永久的に稼働できる。水流ジェット推進で航行。船体下部に潜水ポッドを収納している。

▲艦橋（ブリッジ）部分。浮上直後のシーンのため、注水タンクより海水を排水中だ

▲ノーチラス号より射出中の〝ホム・ガード〟。対魚雷用兵器

グラタン

グランディスたちが使用する万能戦車。ハンソンの設計によるもので、必要に応じてG１からG５まで、さまざまな形態に変形する。乗員はグランディス、サンソン、ハンソンの３人。操縦はサンソン担当。メインエンジンは強制空冷＋油冷直６SV。通常では独立懸架＋ハイドロニューマティック６WD。グランディス・タンクの略。

▲ズーム機能を備えたペリスコープ（潜望鏡）を搭載している

▲G１〜５への変形は、パンチカードをモードセレクターに差し込むことによって容易にできる。真下はG２モードの表示状態

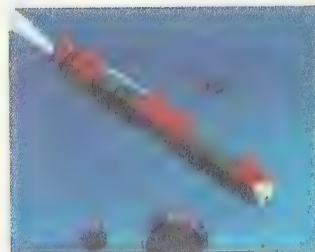
▲G５モード（飛行形態）

▲G２モード（直立形態）

▲マジックハンドも装備

ガーフィッシュ

ガーゴイルが使用する攻撃型潜水艦。船体は特殊合金性で、通常の戦艦クラスならば、体当たり攻撃を行って撃沈させることも可能。ブリッジは船体中央下部にある。爆雷、魚雷、速射砲など多くの武器を搭載。推進はノーチラス号と同じ水流ジェット方式で、第3話ではアメリカ軍艦エイブラハム号によって、水中速度が32ノットであることが確認されているが、最大船速はもっと上であろう。

P66〜71描き下ろしセル　原画／仲盛文　仕上げ／石田幸恵

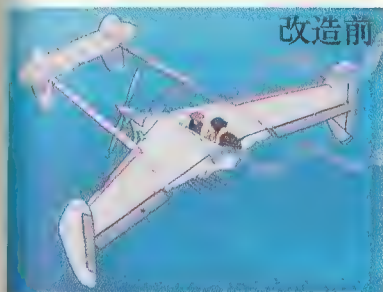
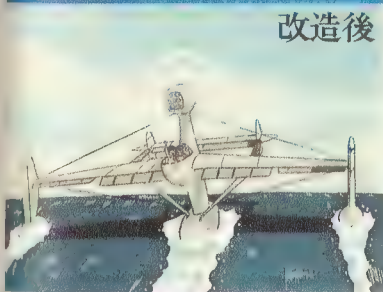
▲ガーフィッシュ速射砲。船体上部に収納されている。ガトリングガンのように砲身が回転

▲魚雷。艦首より発射される

▲水面下すれすれで航行するガーフィッシュ。この姿が目撃され、海獣のウワサが広まった

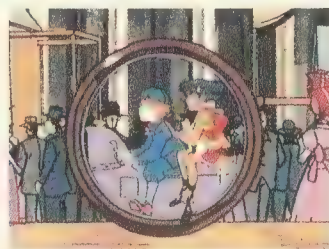
◀アメリカの新鋭艦エイブラハム号に体当たりをして、簡単にこれを大破してしまう

そのほかの登場メカ

[ジャンの飛行機①]

パリ万博の飛行コンテスト出場用にジャンが設計、開発したグライダー。後退翼がついた全翼式で浮力の増加を計っている。

改造前

改造後

[ジャンの飛行機②]

ジャンが設計、発明した世界初のエンジン搭載機。一度墜落するも、ノーチラス号の協力で水上機として復活。

[1輪バイク]

グランディス一味に追われるナディアのためジャンが使用。

[ジャンの船]

船体が前後分離するようになっており、分離後は水中翼船として航行する。

[エイブラハム号]

アメリカ合衆国海軍の最新鋭戦艦。ただし、この作品の舞台となっている1889年当時、アメリカの最新鋭戦艦(実在)はオリンピア号で、このエイブラハム号のような武装を搭載した戦艦が登場するのは、もう少し後である。形状的には日露戦争の連合艦隊旗艦、三笠に近いフォルムを持っている。

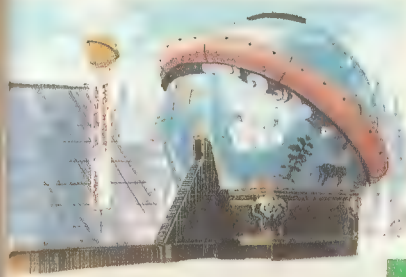
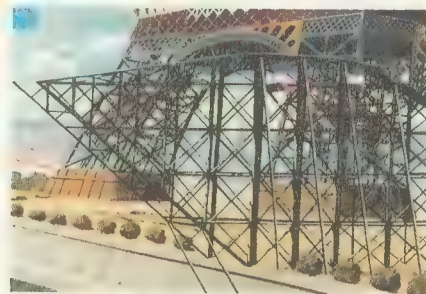
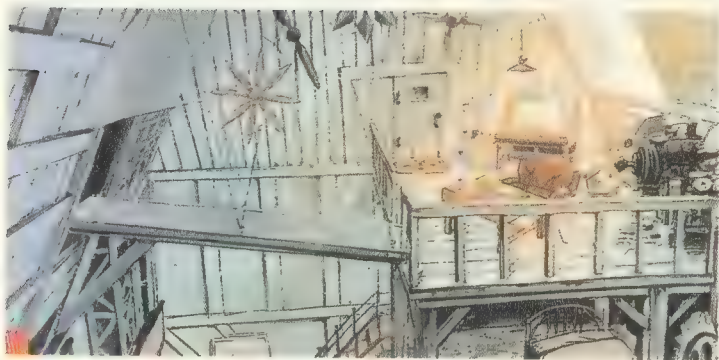
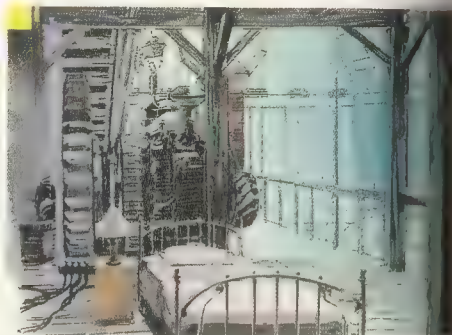
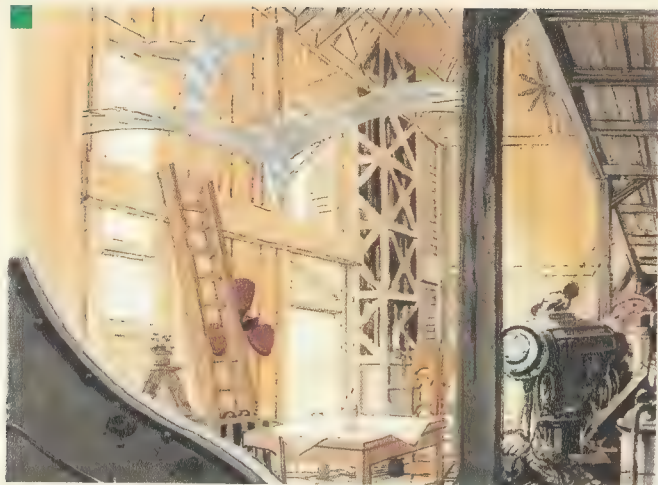
▲出没する海獣退治を目的に出動した

◀中央[illegible]号の艦長

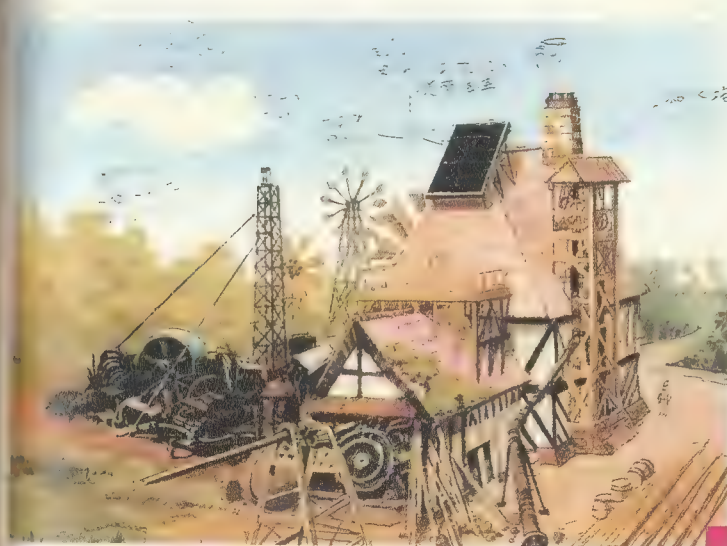
■パリ市街
■パリ万博飛行コンテスト会場
■パリ万博パビリオン
●パリ工業地帯

[1889／パリ]

19世紀末のヨーロッパは、産業革命後の近代化の洗礼を受けつつあった。各地に工場が建設され、科学と交通の発達が人々に多くの利益をもたらしていた。だが、その一方で列強各国の勢力争いの激化の徴候が見えはじめていた……。そんななかで開催されたのがパリ万国博覧会であった。世界各国の発明品、科学技術が一堂に会したそれは、人々に束の間だが、科学による幸福な未来をかい間見せた。

ここでは、近代化の進むパリの各部分の美術ボードを集めている。

［ジャンの家］

ジャンの家はフランスの有名な港ル＝アーブルにある。ル＝アーブルはセーヌ川の河口にあり、交易を中心として栄えた町である。ジャンは行方不明になった父のかわりに、ここに住む伯父と伯母に育てられている。

発明ずきの少年が住む家らしく、外には、さまざまな発明品が設置されており、内部も居住スペースよりも、工房としてのスペースが多くとってあり、さまざまな発明品が並んでいる。

■ジャンの家
■ジャンの家
■屋根裏部屋
■ジャンの寝室
■屋根裏部屋

■バベルの塔
■ガーゴイル基地外観（一部）
■ガーゴイル基地地下通路
■中央制御室

［ガーゴイル秘密基地］

超科学を駆使して建設されたもので、中心部にバベルの塔と呼ばれる中央制御室がある。

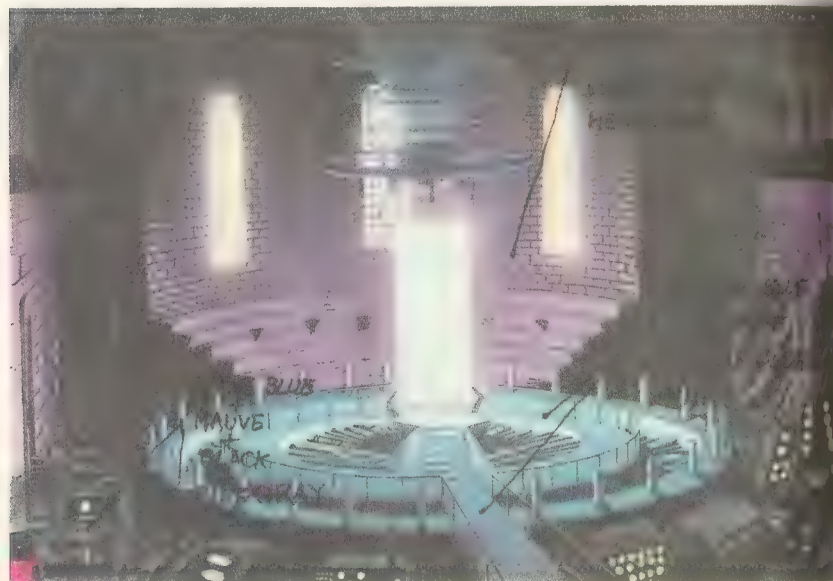
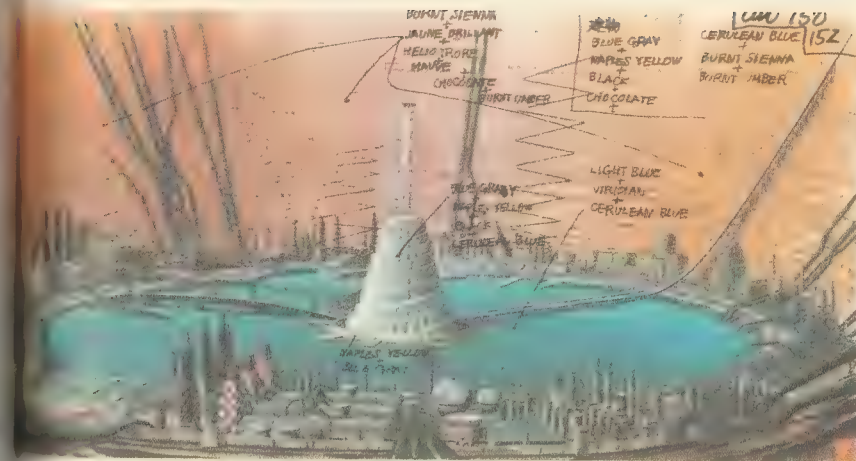
この部分は超科学文明的なふんい気と、それにリアリティを持たせるために他の美術パートと比較して暗い色調のものが多い。また、昔あった超科学の遺跡ともいうべきものを、復元した部分も多く、いかにも急造したように、パイプや電線などがむきだしになっている。

■夕景
■昼
■薄日
■夜明け

[空と海]

ストーリー展開上、話の舞台となるのは陸上よりも海が多い。そのため風景として単調にならないよう、時刻、場所、季節、天候によって、さまざまな海と空の表情が必要だ。

それらの刻々と変わる大自然の顔の表現には、細心の注意がはらわれている。

また、この物語は、毎回舞台が変わっていくので、同じ設定が使えず、美術ボードの量も、通常のTVシリーズに比べるとはるかに多く、美術スタッフの苦労も多い。

THE SECRET OF BLUE WATER

設定とは、アニメーションの作画用に描きおこされた人物やメカ、美術などのデザイン画です。アニメーターは、この設定書を参考に、作画作業を進めるのです。

[ナディア]

「ふしぎの海のナディア」の設定は、キャラクターデザインが貞本義行さん、メカニックデザインが前田真宏さんによってなされた。
ナディアの設定画は、主人公ということもあり、ほかのキャラの数倍の設定が描かれている。

◀明るい表情は本編では少ない

▲正面。ショートヘアが特徴

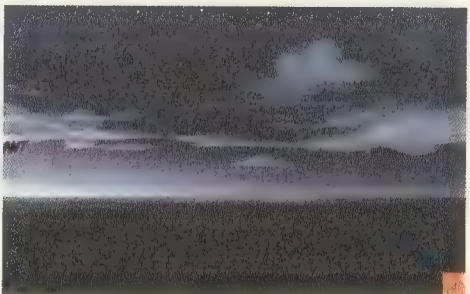
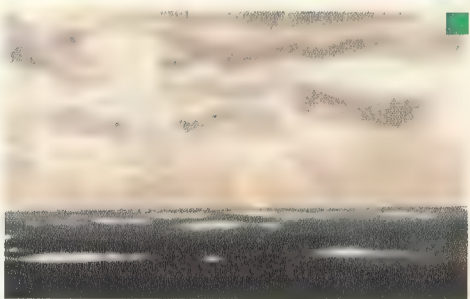
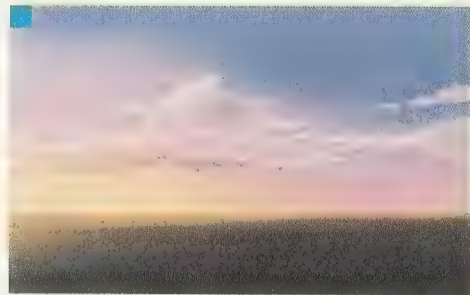
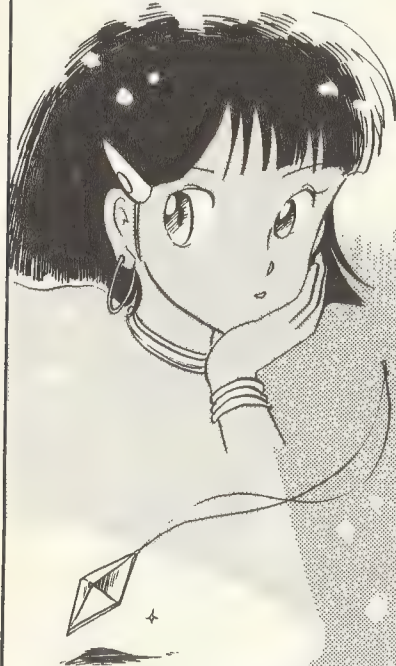
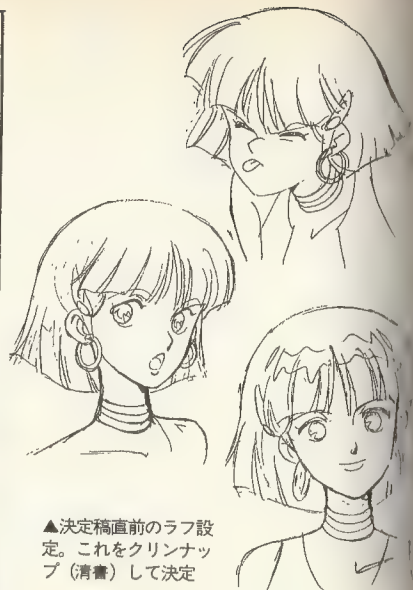
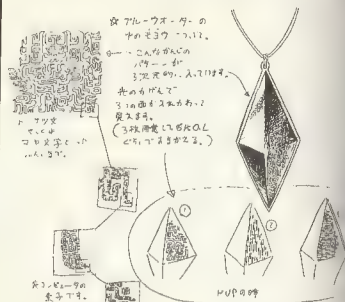
◀ヘアピンは両耳の上でとめている

▲いぶしげな表情をすることが多い

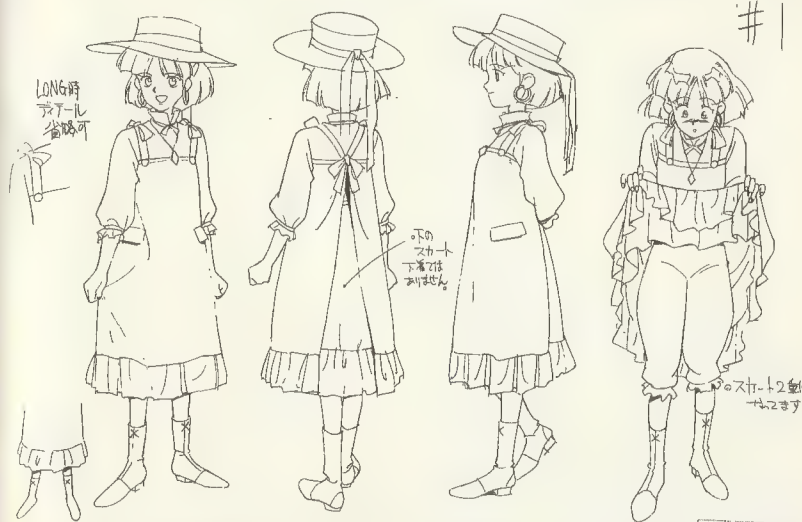
▼目が大きく設定されている

▲物事をはっきりいうキャラだ

▲後姿。首が細いのがポイント

パロディ4コマ劇場

▲決定稿直前のラフ設定。これをクリンナップ（清書）して決定

ブルーウォーター

ナディアがいつも首から下げているペンダント、それがブルーウォーターだ。宝石ではなく〝オリハルコン〟という物質でできており、光コンピューターの部品の一部という設定。同じものはネモ船長も持っており、そのふたつを組合わせて使用するらしい。

▲第4話用設定。ノーチラス号で着がえたときのもの

▲第1話用設定。ジャンと出会ったときの衣裳

考察その1

▼サーカスの衣裳。手にしているのは会場で使用するバトン

▲いかにもショー用のコスチュームデザインだ

◀…下のような注意書きはやっぱり必要

[ジャン]

ジャンはナディアとは対照的なキャラクターなので、その表情も明るいものが多い。身につけている蝶ネクタイや帽子、眼鏡、サスペンダーなどがいかにも育ちのよい発明大すき少年風だ。年齢はナディアと同じ14歳。

▲第4話でノーチラス号に救助されたときに着がえたかっこう

◀足首の部分はハイソックスをはいている

▼背中にせおっているバックの中身は発明用の工具類がほとんどだ

▲獅子座のA型

考察その2

▶メタルフレームの大きな眼鏡が理知的

▼ちょっとおすましの表情

▼ときにはけわしい表情も

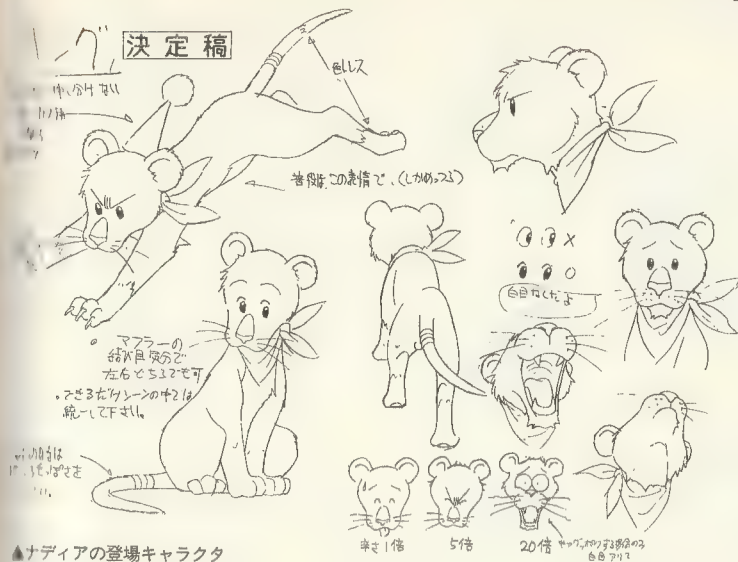
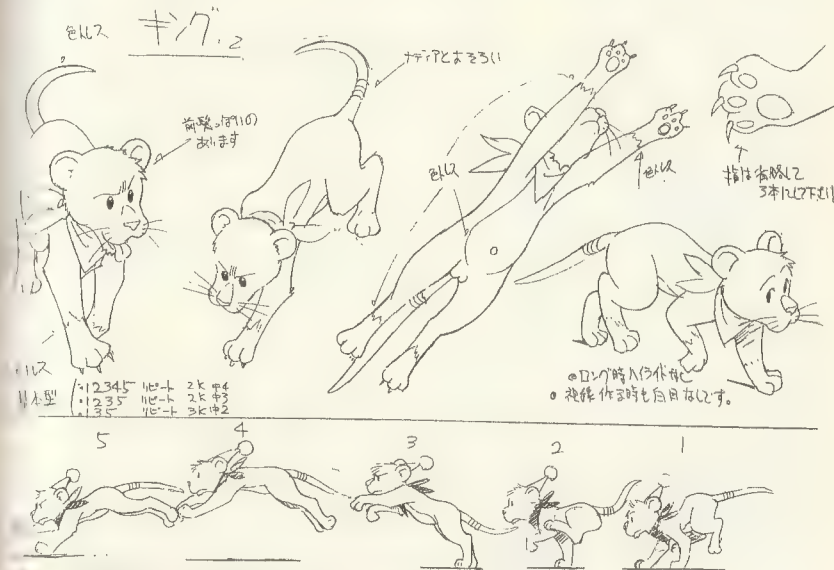
◀こういう表情は少年ならでは

▶裏表のない性格と行動が魅力

◀将来は大発明家かな?

[キング]

ライオンの子ども。ナディアの一番の親友。大きさは成長したネコと同じくらいだが、頭の大きさはひとまわり大きい。

決定稿

▲ナディアの登場キャラクタではスタッフの一番人気!?

▲走りかたの分解図。ウソの動きがないように本物を参考にして作られている

考察その3

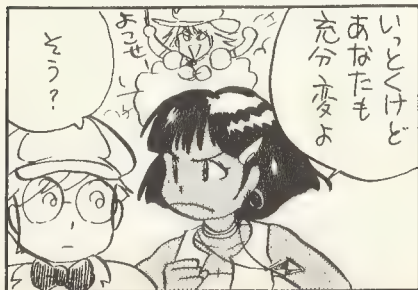
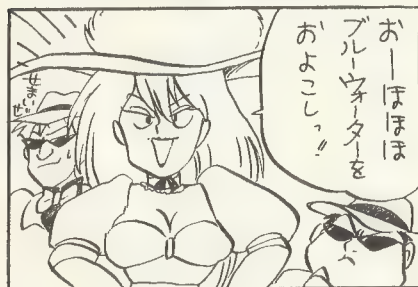
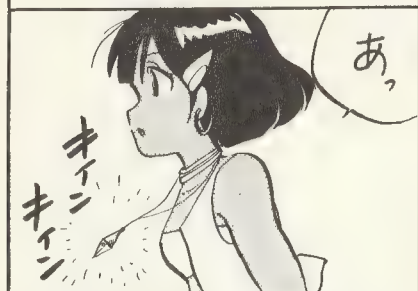
[マリー]

ナディアとジャンが孤島で知りあった少女。両親を亡くしているが性格は明るく、キングと大のなかよしになる。ちょっぴりおしゃま。

▶ドラマのなかではマスコット的な存在

[ネモ]

ノーチラス号の船長。古代超文明の技術を継承しており、謎の組織"ネオ・アトランティス"と戦うために潜水艦ノーチラス号を指揮する。意志は強く、感情を表面にださない。ナディアとは浅からぬ因縁がありそうだ。46歳。

▶帽子についているマークはガーゴイルのものと同じだ。そこに秘密が…

[エレクトラ]

ノーチラス号副長。ネモに対して秘かにある種の複雑な感情を持っている。理知的な性格で、カンも鋭い。26歳。

◀趣味は読書で、低血圧なので朝は弱いという設定

考察その4

[グランディス]

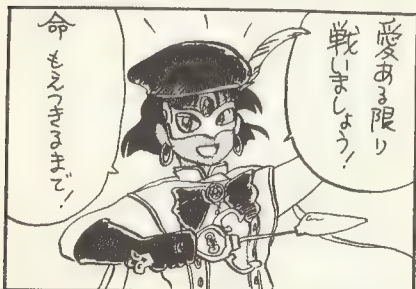
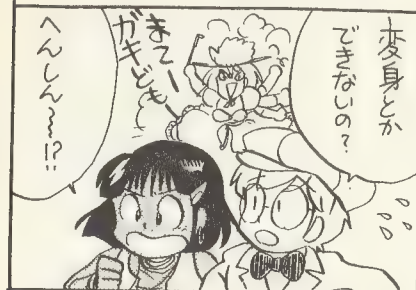
グランディスたち3人のキャラクターは、タツノコプロの「タイムボカンシリーズ」の悪玉トリオをモチーフに考えられている。

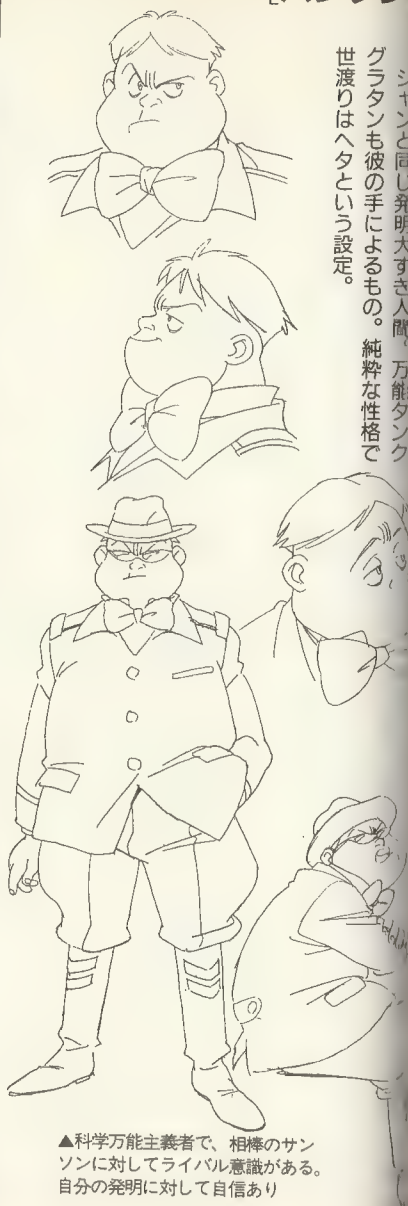
▲最初は悪人として描かれているが、決してそうではない

▲ほかの女性キャラとちがい感情をストレートに出すので案外かわいく見える

[サンソン]

皮肉屋で現実主義者という性格だが、根はロマンチスト。グランディスを秘かに思っている。多少ナルシスト気味のところあり。

▲しゃれっ気はたっぷり、身だしなみには気を使っている

[ハンソン]

ジャンと同じ発明大すき人間。万能タンクグラタンも彼の手によるもの。純粋な性格で世渡りはヘタという設定。

▲科学万能主義者で、相棒のサンソンに対してライバル意識がある。自分の発明に対して自信あり

考察その5

[エアトン]

ひょうひょうとした性格で、物事を楽しむ。みなし子となったマリーをかわいがる。ちょっとホラ吹き的な要素もある。27歳。

◀憎めない脇役として活躍する。現代的な青年

[ジャンのおじさん&おばさん]

▶▼対照的なふたり。おじさんはジャンの発明を応援する

幼いころに母を亡くし、海難事故で行方不明になった父を持つジャンの面倒をみている。おばさんは発明がどうもきらいらしい。

[ガーゴイル]

超科学で世界征服をたくらむ謎の組織〝ネオ・アトランティス〟の司令官。ネモ船長とは浅からぬ因縁があるようだ。46歳。

▼マスクの額と手袋にある目玉のマークは、彼らネオ・アトランティスのシンボル

▼ガーゴイルとはフランス語で〝悪魔〟を意味する言葉である

無駄？

J・ベルヌ（ジュール）の世界

この作品の原案にクレジットされているジュール・ベルヌは19世紀の元祖SF作家的な人物だ。

ジュール・ベルヌ（1828〜1905）は、19世紀後半に活躍したフランスの小説家。

世界の地理や科学、発明、それに未知の世界を題材に、豊かな空想力と科学的な視点で、冒険小説の新分野を開拓した人物だ。

「海底二万海里」や「八十日間世界一周」「十五少年漂流記」「地底探検」など、夢多い名作をいくつも書き残している。

また、それらの作品中で、当時では夢想でしかなかった原子力潜水艦や人類の月到達など、20世紀後半に実現する科学技術を、まるで予言するかのように描いている先見性も持っていた。

彼の書く作品には、どれも夢とロマン、科学性、それに人間と自然に対する愛情がよくあらわれている。

それらの作品が、なぜ書かれるようになったのかは、彼の生い立ちにある。

16世紀にフランスで起きた宗教戦争[illegible]

有名な港町ナントに生まれた彼は、法律家の子として育った。

しかし、幼いころから港に出入りする船を見て育った冒険心から、11歳のときにインド行きの船に見習水夫として乗りこんでしまう。しかし、すぐに見つかって連れ戻され、父にこう誓った。

「これからはもう夢のなかでしか旅をしません」

以後、法律を学びつつ育ったのだが、こうした少年の日に満たされなかった夢が小説という形で実現したのだ。

「モンテ・クリスト伯」や「三銃士」の作者、アレクサンドル・デュマとパリで知り合い、文学を志すようになった彼は、当時の急速な科学の進歩に刺激され[illegible]

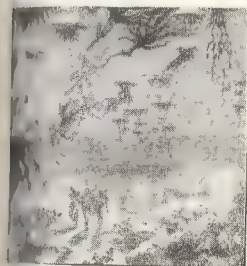
35歳のときに「気球旅行五週間」を発表、以降つぎつぎと作品を発表する。

彼の作品は、多くの人々に受け入れられ、世界中の人々に愛されている。

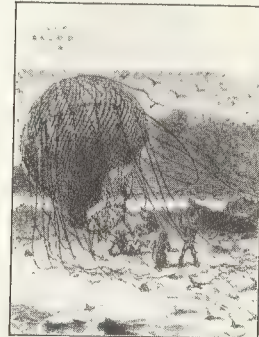
だが、単なる冒険小説ではないのは、その作品において、科学の進歩にくらべ、人間自体の進歩は困難であるという視点を持ち、それがメッセージとして伝わってくるからだろう。

読んでおきたいこの2冊

海底二万海里

清水正和 訳
福音館書店 刊

ネモ船長とノーチラス号が登場する海洋冒険物。タイトルとなっている海里はフランス語のリーグ[illegible]キロに直すと約4キロ。ベルヌの代表作として名高い名作だ。

神秘の島（上・下）

清水正和 訳
福音館書店 刊

「海底二万海里」の続篇にあたる作品。ネモ船長とエアトンが登場し、舞台となるのがリンカーン島という孤島であるのが、ナディアとの共通点。冒険小説。

1872年に刊行された「海底二万海里」に掲載されたさし絵。ノーチラス号のなかより、海中の大ダコを観察するネモ船長（左側）。さし絵はエッチングでA・ド・ヌヴィル画

参考文献／「新世紀大百科」（学研）「国民百科事典」（平凡社）

気苦労

あんな黒人の女の子を連れて来て…
あ
くどくど
さっきはおばさんが…ごめん
いいの
すぐこわれる変てこな発明品ばかりつくって!!
子供のミルク代もないのよ
おばさんの苦労ってわかる気がする
ふ

▶ノーチラス号の乗組員は60人。リンカーン島にあるドックで建造された

◀後方より。推進機関部分はまるで宇宙船だ

ノーチラス号のデザインは、あえて古典的なものをさけて、宇宙船のようなイメージで設定されている。
デザインは前田真宏さんだが、基本的イメージは庵野総監督によって細かに指示されて描かれた。

考察その6

ノーチラス号各部設定

ブリッジ部分以外、すべて近代的なデザインのノーチラス号。メカにこだわる庵野総監督の指示で、多くの設定が作られている。
船長室にパイプオルガンがあるところなどは原案の小説と同じだ。

▲ブリッジ（艦橋）後方

▲船長室

▲エンジンルーム

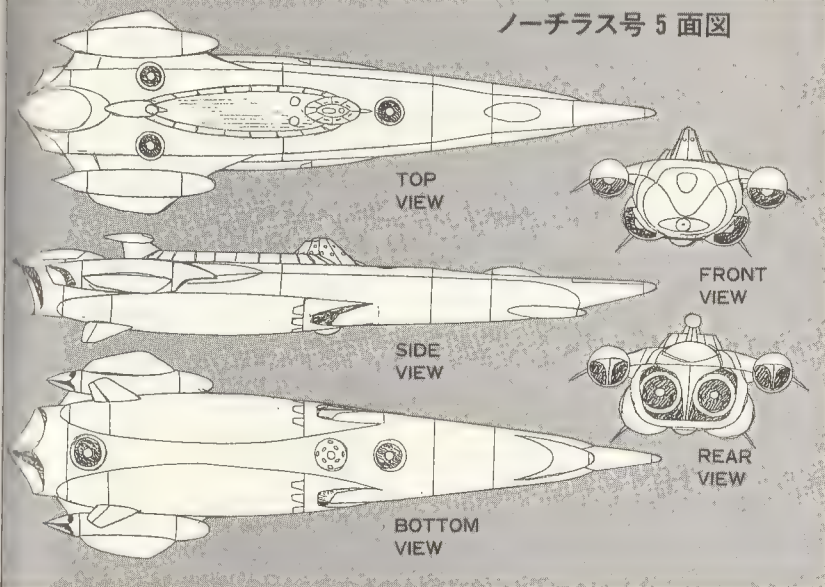
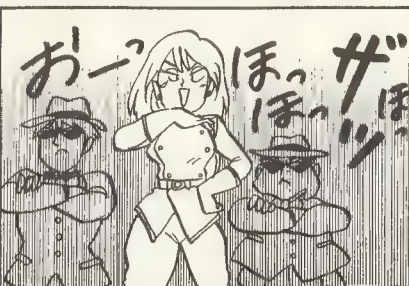
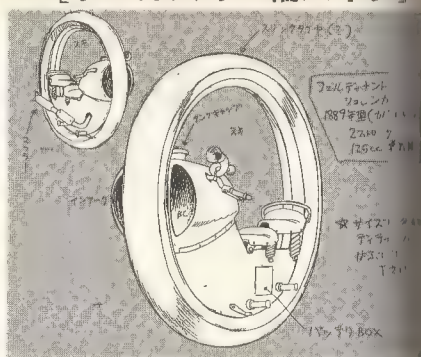
[ジャンのグライダー]

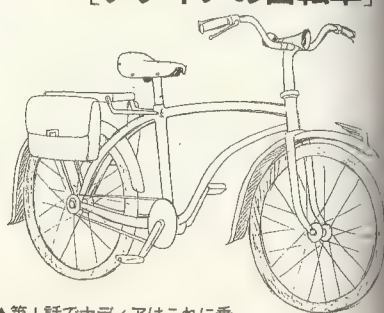
◀ひとり乗りのグライダー。
パリ万博の飛行コンテスト
参加用にジャンが発明した

[ジャンの飛行機]

▶自宅の屋根裏でジャンが製作した世界初（！）のエンジンつき飛行機

[ジャンの船]

▼前後に分離する構造を持っている。通常はセイル（帆）で走行

考察その7

[サーカスの一輪バイク]

▲ジャンがナディア救出用に使用した

[ナディアの自転車]

▲第1話でナディアはこれに乗ってジャンの前を通り過ぎた

[グラタン]

空中、地上、水上、どこでも活躍できる万能タンク。ノーチラス号とはちがい、ユーモラスな感じに設定されている。

内部にはスチームヒーターはもとより、油圧で作動するマジックハンドや風呂まで装備されている。

設計、製作はグランディスの部下ハンソンの手によるもの。

後に水中モード可能に改造される。

▲飛行モード。熱気球 内蔵しており、小型 ロペラで飛行する

▲基本モードのタンクタイプ。車内への出入りは上部ハッチより

▲グラタンの内部設定

考察その8

▲直立モードは車高を高くするだけではなく歩くこともできる

▲水上モードでは車輪を引き込んで防

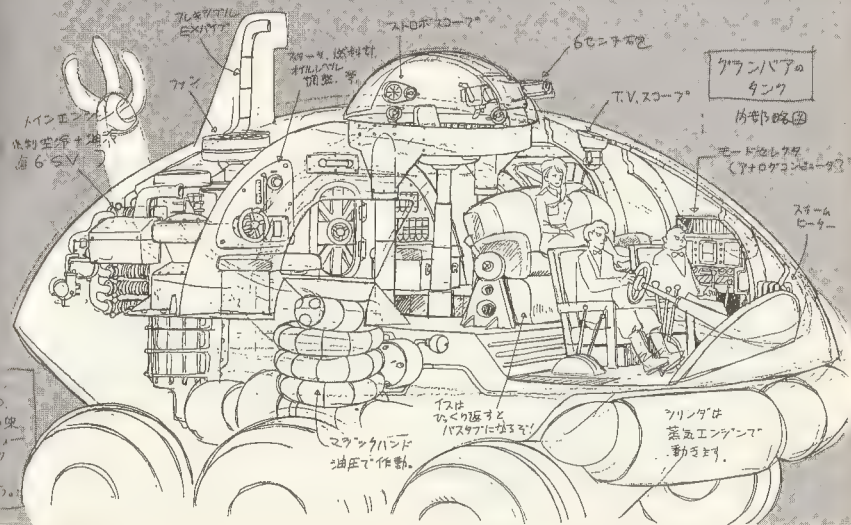
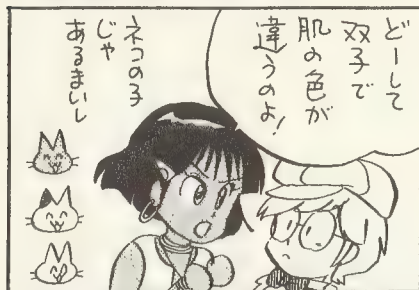
▲スクリューでゆっくりと航行する

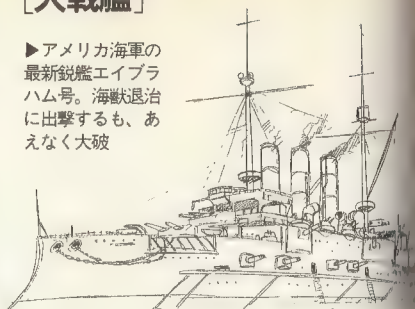
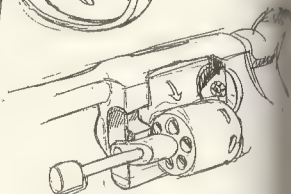
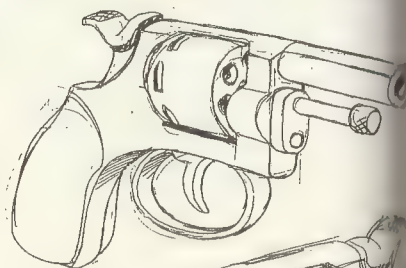
[ガーフィシュ]

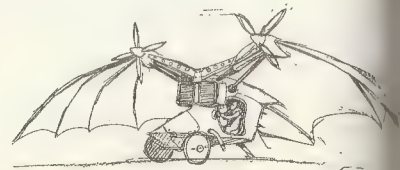
▲第3話より登場したネオ・アトランティスの戦闘潜水艦。各地で船を沈め、海獣と思われている

[カルカロドン]

▲ガーゴイルが使用する空中戦艦。8基のエンジンでプロペラによる推進で飛行する。下部ゴンドラ部がブリッジにあたる

ナディアに登場するメカニックは、実在したものと、現代風なもの、それにユニークな空想風なもの3種に分けられる。
それらのメカニックの対比によって、作り出される画面は想像力を刺激する。

スターウォーズじゃないよ

[大戦艦]

▶アメリカ海軍の最新鋭艦エイブラハム号。海獣退治に出撃するも、あえなく大破

[サンソンの銃]

▲リヴォルバー式6連発銃。シリンダー(弾筒)が左回転する

[コウモリ飛行機]

▲第1話の飛行コンテストシーン用に描かれたユニークな飛行機? の設定の1枚。当然、飛ばない

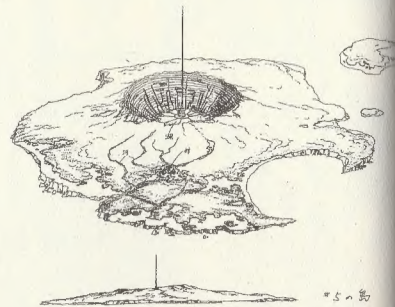
[美術設定]

毎回、舞台が変わるナディアでは、美術設定は大切な役割を持っている。その美術の一部を紹介しよう

ナディアが通常のテレビアニメとちがう部分に、毎回ストーリーの舞台が変わる点がある。
舞台が変わるということを、演劇に置き変えた場合、セットが丸ごと変わってしまうようなもので、スタッフは各話ごとに数十枚の設定を描き起こさねばならない。
また、SF作品といっても、1889年というように年代をきちんと設定してあるので、時代考証(その当時の建物の形や、使われている道具、服、その他etc…)もしっかりしなければならない。
それらのもののリアリティがはっきり表現されることにより、物語やキャラクターに深みが出てくるのだ。
第1話を例にとっても、パリの街のほかに、万国博覧会場や飛行コンテスト会場であるエッフェル塔付近、サーカス小屋など、たくさんの設定が描かれている。
ナディアでは、このような毎回変わる設定も楽しみな要素といえる。

▲ジャンの家。いかにもひとりで住んでいる発明ずきの少年の家らしく、細部に改造部分がある

▲ネオ・アトランティス秘密基地。これは全体がどうなっているかを説明した図。遊び心がわかる

▲飛行コンテスト会場。右側に見えるのはエッフェル塔。同じものがさまざまな角度から描かれている

▲ネオ・アトランティスの秘密基地がある島。中心の火口のような部分に基地がある

エレクトラ

J（ジュール）・ベルヌの映像世界

ベルヌの小説は、そのいずれも冒険、科学、空想の要素を持っており、多数の映像化作品がある。

▲「アトランチスの謎」より。中央がホセ・ファーラー扮するネモ船長

▲「80日間世界一周」より

映像が小説と一番ちがう部分は、読者の想像力に頼らず、視覚的なイメージを画面で見せなければならないという点だ。

ベルヌの作品は、潜水艦、気球などメカニック的なものから、恐竜や地底世界など、画面をいろどるさまざまな要素があるため、映像化しやすいらしく、サイレント時代から現在まで、数多くの作品が作られている。

最初に公開されたのは、1916年にアメリカのユニヴァーサル映画が製作した「海底2万里」だった。サイレント（無声映画）ながら、世界ではじめて水中撮影が行われた作品で、主役ともいうべきノーチラス号は原作のさし絵に忠実なデザインであった。

その後、トーキー（音声つき映画）、カラー化、シネマスコープ、70ミリと、映画の進歩とともに、数多くの作品が映像化されている。

なかでも、ディズニープロが製作した「海底2万マイル」とマイケル・トッド製作による「80日間世界一周」は、スタッフ、キャストともに充実し、興行的にも大ヒットを記録している。一度は観ておきたい作品といえる。

主なビデオガイド

海底2万マイル

1954年、アメリカディズニープロ製作。カラー作品。アカデミー特撮賞を受賞した名作、ノーチラス号のデザインも有名。ネモ船長には悪役で有名なジェームズ・メイスンが扮している。ディズニーホームビデオより発売中。

アトランチスの謎

1978年、アメリカワーナー映画製作。カラー作品。ネモ船長とノーチラス号が登場するが、話はオリジナルで、冷凍冬眠していたネモ船長が現代に復活、世界征服をたくらむ科学者と戦う物語。ワーナーホームビデオより発売中。

80日間世界一周

1956年、アメリカワーナー映画製作。2万ポンドの賞金を賭けての80日間世界一周の物語。超大作で、'56年度のアカデミー賞5部門を受賞した名作。上映時間も2時間49分と長い。2巻組。ワーナーホームビデオより発売中。

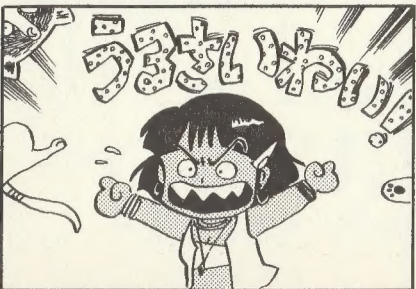
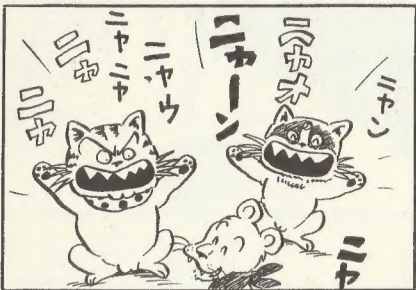
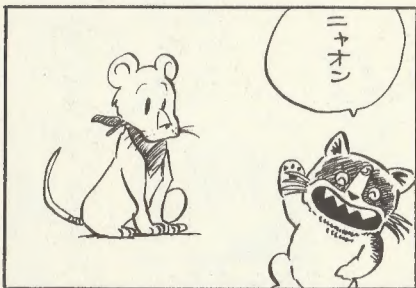
地底探険

1959年、アメリカ20世紀フォックス製作。地球空洞説を実証するため、科学者一行は火山の火口から地底世界へ向うという冒険物。プロデュースは「タワーリングインフェルノ」のアーウィン・アレン。CBS／FOXより発売中。

キングの声

菜食

変な発明品

おしまい

「ふしぎの海のナディア」STAFF&CAST

原案　ジュール・ベルヌ作「海底2万マイル」より

制作
丸山　健一　　久保田　弘

総監督　庵野　秀明
キャラクターデザイン　貞本　義行
設定　前田　真宏
美術監督　菊地　正典　佐々木　洋
脚本　大川　久男

演出
森川　滋　　増尾　昭一
摩砂雪　　米谷　良知
ますなりこうじ　もりたけし
佐々木裕之　　鈴木　幸雄
神谷　純　　窪岡　俊之

作画監督
鈴木　俊二　　窪岡　俊之
武内　啓　　松原　秀典
阿部　司　　川名久美子
貞本　義行　　釘宮　洋
加瀬　政広　　柳田　義明

音楽　鷺巣　詩郎

アニメーション・プロデューサー
村浜　章司　　川人憲治郎

色彩設定　高屋　晴美
編集　古川　雅士
音響監督　清水　勝則
ミキサー　成清　量
効果　野口　透

オープニングテーマソング
「ブルーウォーター」　歌　森川　美穂
作詞　来生えつこ
作曲　井上ヨシマサ
編曲　ジョー・リノイエ

エンディングテーマソング
「YES, I WILL…」　歌・作詞　森川　美穂
作曲　ジョー・リノイエ

アニメーション制作担当
額経　康史　　児玉ともじ

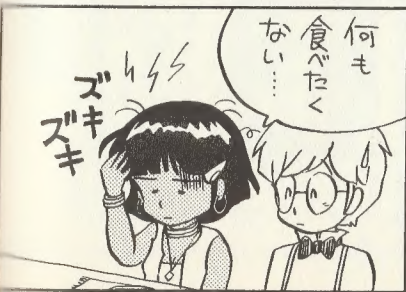
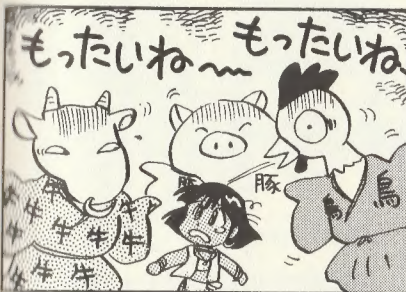
アニメーション協力
グループ・タック　GAINAX
世映動画

アニメーション
東宝　　KORAD

共同制作
NHKエンタープライズ　総合ビジョン

企画制作　NHK

声の出演

役	声優
ナディア	鷹森　淑乃
ジャン	日高のり子
グランディス	滝沢久美子
サンソン	堀内　賢雄
ハンソン	桜井　敏治
マリー	水谷　優子
ネモ	大塚　明夫
エレクトラ	井上喜久子
エアトン	山寺　宏一
ガーゴイル	清川　元夢

●ふしぎの海のナディア・公式ガイドブック・スタッフ●

構成　きしかわおさむ
編集協力　徳木吉春　海老原秀幸
レイアウト　テン・グラフィス
写真提供　持田和夫

ふしぎの海のナディア 公式ガイドブック

編者　アニメージュ編集部(へんしゅうぶ)
発行者　荒井(あらい)修(おさむ)
発行所　株式会社徳間書店
東京都港区新橋四―一〇―一　〒一〇五―五五
電話〇三(四三三)六二三一(大代)
振替　東京四―四四三九二番
印刷　大日本印刷株式会社
製本　(株)宮本製本所
〈編集担当　吉田勝彦〉

★この本を読んでの感想を右記までおよせ下さい。また、著者へのお便りもお待ちしています。
(乱丁、落丁本はお取りかえいたします)

91
G
31
I

ISBN4-19-364253-4